

(独)情報処理推進機構委託

I T人材市場動向予備調査 報告書（後編）

(独) 情報処理推進機構 I Tスキル標準センター

目 次

第 1 章	調査概要	5
第 2 章	情報サービス産業に対する学生の就職人気及び就業動向に関する調査	7
1.	既存調査・資料分析結果	8
1.1	就職に関する最近の学生の全体的な傾向	8
1.2	情報サービス産業（ソフトウェア関連業種）に対する人気	11
1.3	情報サービス産業（ソフトウェア関連業種）に対するイメージ	12
1.4	情報サービス産業における採用活動の現状	15
2.	予備調査結果	17
2.1	調査概要	17
2.2	調査結果	18
2.3	調査結果分析と提言	40
【参考】	アンケート調査票	45

第1章 調査概要

第1章では、調査内容を示すとともに、第2章以降に詳細を記載した。

調査内容

本調査の内容については、以下のとおり。

【情報サービス産業に対する学生の就職人気及び就業動向に関する調査】

「情報サービス産業に対する学生の就職人気と就業動向に関する調査」(第2章)では、I T人材動向に関する調査の一環として、情報サービス産業に対する学生の就職人気や学生の実際の就業動向を把握し、産業への人材の流れや、産業が優秀な人材を獲得するための方策についての検討を行った。

本報告書の第2章以降では、上記調査に関する詳細な結果を記載している。

第2章 情報サービス産業に対する学生の就職人気及び 就業動向に関する調査

今回の予備調査では、企業や高等教育機関を対象とした調査に加えて、昨今、「人気が低迷している」などと言われる情報サービス・ソフトウェア産業の人気の現状を明らかにし、その原因等を把握することを目的として、現役大学生を対象とした調査を実施した。

第4章では、この調査・分析を踏まえ、情報サービス・ソフトウェア産業の人気を向上させるための施策や、この産業が、優秀な人材を獲得するための方策を示す。

1. 既存調査・資料分析結果

本調査では、まず、最近の学生の就業動向や情報サービス・ソフトウェア産業の人気等に関する既存調査・資料等の分析を行い、ヒアリング調査・アンケート調査の実施に向けて、全体の傾向等の把握を試みた。以下に、その結果を示す。

1.1 就職に関する最近の学生の全体的な傾向

情報サービス・ソフトウェア産業についての人気を明らかにする前に、学生全体の傾向を把握するため、既存調査の結果を整理した。その結果を以下に示す。

(1) 過去からの変化

図 2-1 は、平成 18 年度の新入社員の「入社した会社を選んだ理由」を示すデータである。このデータによると、「自分の能力・個性を生かせること」や「仕事の面白さ」を重視して会社を選定した新入社員が多いと言える。一方で、「技術が覚えられるから」という理由も比較的多く回答されており、“手に職”志向の新入社員も多い。

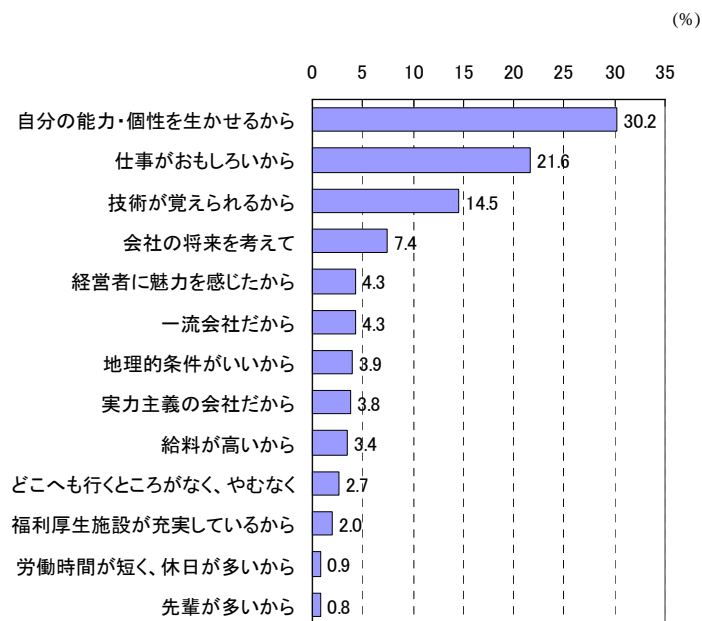


図 2-1 会社を選んだ理由

(「平成 18 年度新入社員『働くことの意識』調査報告書」)

図 2-2 は、1971 年、2005 年の調査結果から、新入社員が企業を選ぶ理由の移り変わりを長期的なスパンで示すデータである。このデータによると、1971 年の調査では、「会社の将来性を考えて」が全回答の約 30%を占め、最も多い選択理由であったのに対し、2005 年の調査では大きく減少している。その一方で、「自分の能力・個性が生かせるから」「仕事が面白いから」といった回答が増加している。この結果から、近年新入社員は、企業依存から自分を生かす方向へ変化する傾向にあると言える。また、「技術が覚えられるから」という回答も 1971 年の約 2 倍に増加している。

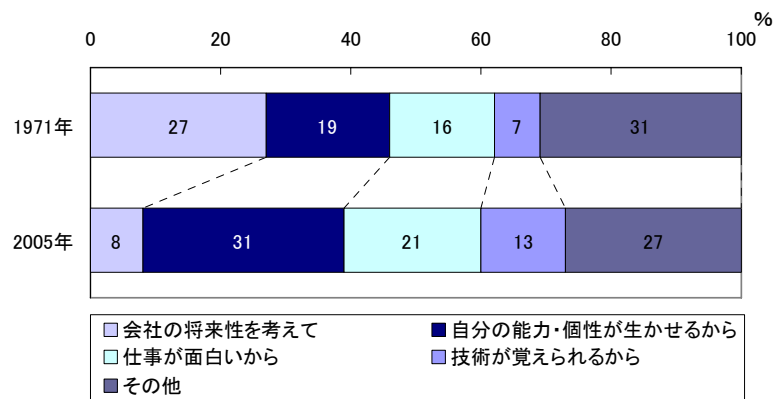


図 2-2 学生が会社を選ぶにあたって重視した要因の移り変わり
 （社会経済生産性本部「新社会人白書」2006 年 3 月）

(2) 学生が就職したい企業

図 2-3 は、学生の職業観と就職志向を示すデータである。このデータによると、近年、「自らが成長できる企業を目指す」、「専門職種を目指す」といった自己成長志向、プロフェッショナル志向の就職観を持つ学生が多い傾向にある。また、1971 年の会社の選定理由に関する調査（図 4-2）結果からも明らかなように、従来から学生に強く見られた安定志向やブランド志向は、近年も比較的高い傾向がみられる。

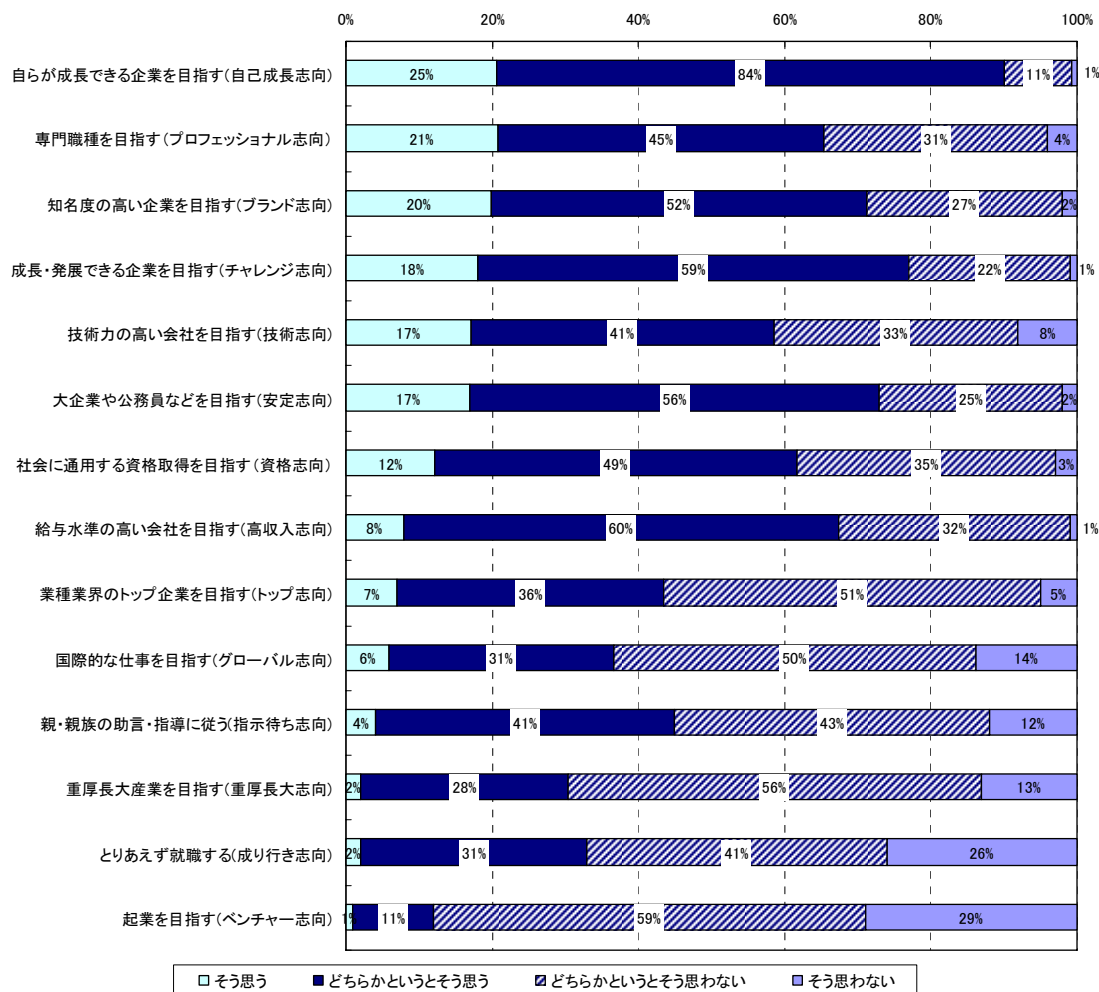


図 2-3 学生の職業観と就職志向

(JISA「情報サービス産業に対するイメージに関するアンケート調査」2006 年 11 月)

1.2 情報サービス産業（ソフトウェア関連業種）に対する人気

図 2-4 は、学生の志望職種別ランキングの結果である。このデータによると、ソフトウェア業界は全 56 業種中 24 位で、学生に人気の高いマスコミ、銀行、商社などの業界と比較すると、ややその人気が押され気味であると言える結果となった。ただし、全体の中での順位はそれほど低いわけではないため、「人気が低い」とは、一概には言えないと思われる。

順位	業種	合計	順位	業種	合計
1	マスコミ	17.8%	29	精密機器	2.2%
2	食品	16.8%	30	流通	2.0%
3	銀行	11.3%	31	損害保険	2.0%
4	商社	11.2%	32	公団・団体	1.9%
5	サービス	10.4%	33	外資系メーカー	1.8%
6	旅行・レジャー	10.1%	34	繊維	1.5%
7	化粧品	8.5%	35	諸工業	1.4%
8	情報・調査・コンサルタント	7.1%	36	外資系サービス	1.2%
9	電子・電気機器	6.4%	37	生命保険	1.1%
10	空運	6.3%	38	海運	1.1%
11	教育	6.2%	39	紙・パルプ	0.8%
12	公務員	6.0%	40	外食	0.8%
13	住宅	5.7%	41	水産	0.7%
14	薬品	5.6%	42	鉄鋼	0.7%
15	化学	4.5%	43	外資系金融	0.7%
16	輸送用機器	3.9%	44	石油	0.5%
17	百貨店	3.8%	45	クレジット	0.5%
18	ファッション(アパレル)	3.8%	46	プラントエンジニアリング	0.4%
19	鉄道	3.7%	47	リース	0.4%
20	ガス・電力・エネルギー	3.7%	48	陸運	0.4%
21	その他	3.7%	49	鉱業	0.3%
22	証券	3.4%	50	セメント・セラミックス	0.3%
23	通信	3.1%	51	金属製品	0.3%
24	ソフトウェア	3.0%	52	ゴム	0.2%
25	建設	2.9%	53	ガラス	0.2%
26	不動産	2.5%	54	非鉄金属	0.2%
27	機械	2.4%	55	電線	0.1%
28	アミューズメント	2.4%	56	倉庫	0.1%

図 2-4 学生の志望業種

(毎日コミュニケーションズ「2007 年度大学生の就職意識調査」2007 年)

1.3 情報サービス産業（ソフトウェア関連業種）に対するイメージ

次に、学生や教育機関の、情報サービス産業のイメージに関する調査結果を示す。

(1) 学生のイメージ

図 2-5 は、学生の業種別のイメージランキングの結果である。図 2-5 は、学生が、各項目においてプラスのイメージに当てはまる業種を選択した結果である。

この結果によると、ソフトウェア・情報処理の業種は「技術力」、「スキル・経験が生かせる」の項目でプラス評価が高く、技術を重んじる業種とイメージする学生が多いことがうかがえる。一方、「安定性」、「社員の定着率」、「社会的貢献度」の項目において、評価が低く、このようなイメージの浸透が、情報サービス・ソフトウェア産業の人気低迷に結び付けられているのではないかと推察できる。

【安定性】		
順位	業種	%
1	ガス・電力	54.1%
2	銀行(都銀・地銀)	52.1%
3	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	41.5%
4	鉄鋼・非鉄金属	31.9%
5	メーカー(自動車・バイク)	29.3%
6	食品	28.4%
7	国内生損保	27.6%
8	メーカー(機械・電子・電気機器)	26.8%
9	国内証券	24.6%
10	メーカー(化学・薬品)	24.1%
11	不動産	24.0%
12	商社(総合)	23.6%
13	通信	22.9%
14	教育産業	19.9%
15	広告・マスコミ	19.6%
16	流通	18.8%
17	外資系金融(銀行・生損保・証券)	18.2%
18	ホテル	17.5%
19	建設・住宅	17.4%
20	ドラッグストア	13.4%
21	クレジット・信販	12.5%
22	旅行	11.6%
23	カーディーラー	10.5%
24	商品取引	10.1%
25	フードサービス	9.8%
26	コンサルティング	8.9%
27	人材派遣・人材紹介	8.5%
28	消費者金融・事業者金融	8.1%
29	アミューズメント	7.9%
30	ソフトウェア・情報処理	7.5%

【将来性】		
順位	業種	%
1	ソフトウェア・情報処理	24.0%
2	メーカー(機械・電子・電気機器)	23.0%
3	通信	22.6%
4	メーカー(化学・薬品)	21.3%
5	メーカー(自動車・バイク)	21.1%
6	コンサルティング	19.5%
7	人材派遣・人材紹介	19.5%
8	外資系金融(銀行・生損保・証券)	16.3%
9	ガス・電力	15.9%
10	商社(総合)	15.7%
11	広告・マスコミ	15.6%
12	教育産業	13.7%
13	鉄鋼・非鉄金属	13.5%
14	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	13.1%
15	国内証券	12.7%
16	銀行(都銀・地銀)	12.4%
17	旅行	10.6%
18	流通	10.0%
19	食品	9.3%
20	クレジット・信販	8.6%
21	アミューズメント	8.5%
22	不動産	7.3%
23	ドラッグストア	6.9%
24	建設・住宅	6.8%
25	国内生損保	6.6%
26	ホテル	6.6%
27	商品取引	6.5%
28	フードサービス	6.0%
29	カーディーラー	3.9%
30	消費者金融・事業者金融	3.6%

【給与・待遇】		
順位	業種	%
1	外資系金融(銀行・生損保・証券)	41.3%
2	商社(総合)	37.0%
3	国内証券	37.0%
4	銀行(都銀・地銀)	36.9%
5	広告・マスコミ	28.2%
6	国内生損保	27.9%
7	コンサルティング	25.0%
8	不動産	20.0%
9	消費者金融・事業者金融	19.3%
10	ガス・電力	18.9%
11	クレジット・信販	17.7%
12	メーカー(化学・薬品)	17.0%
13	メーカー(自動車・バイク)	16.7%
14	ソフトウェア・情報処理	14.4%
15	メーカー(機械・電子・電気機器)	14.2%
16	通信	14.2%
17	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	13.9%
18	鉄鋼・非鉄金属	13.2%
19	商品取引	12.8%
20	建設・住宅	11.5%
21	カーディーラー	10.7%
22	人材派遣・人材紹介	8.9%
23	ホテル	8.2%
24	アミューズメント	7.7%
25	ドラッグストア	7.0%
26	旅行	6.2%
27	食品	6.1%
28	流通	5.8%
29	教育産業	5.6%
30	フードサービス	3.0%

【社員の定着率】		
順位	業種	%
1	ガス・電力	22.1%
2	メーカー(機械・電子・電気機器)	18.5%
3	メーカー(自動車・バイク)	17.7%
4	銀行(都銀・地銀)	16.1%
5	メーカー(化学・薬品)	15.4%
6	鉄鋼・非鉄金属	14.9%
7	食品	14.6%
8	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	14.5%
9	広告・マスコミ	8.9%
10	商社(総合)	8.6%
11	教育産業	7.9%
12	ホテル	7.6%
13	通信	7.4%
14	国内生損保	6.6%
15	国内証券	6.5%
16	流通	6.1%
17	建設・住宅	5.6%
18	ソフトウェア・情報処理	5.5%
19	旅行	5.4%
20	ドラッグストア	4.9%
21	カーディーラー	4.6%
22	クレジット・信販	4.4%
23	不動産	4.1%
24	フードサービス	3.9%
25	商品取引	3.5%
26	人材派遣・人材紹介	3.5%
27	アミューズメント	3.5%
28	外資系金融(銀行・生損保・証券)	3.4%
29	コンサルティング	2.9%
30	消費者金融・事業者金融	2.5%

【技術力】		
順位	業種	%
1	メーカー(機械・電子・電気機器)	55.8%
2	メーカー(自動車・バイク)	52.4%
3	メーカー(化学・薬品)	47.8%
4	鉄鋼・非鉄金属	41.2%
5	ソフトウェア・情報処理	32.5%
6	ガス・電力	21.9%
7	通信	20.8%
8	建設・住宅	20.7%
9	食品	14.0%
10	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	12.7%
11	広告・マスコミ	9.7%
12	カーディーラー	7.8%
13	コンサルティング	6.8%
14	流通	4.7%
15	教育産業	4.7%
16	アミューズメント	4.6%
17	ドラッグストア	4.5%
18	フードサービス	4.3%
19	人材派遣・人材紹介	4.1%
20	ホテル	4.1%
21	不動産	3.8%
22	旅行	3.5%
23	商社(総合)	3.0%
24	商品取引	2.3%
25	外資系金融(銀行・生損保・証券)	1.9%
26	国内証券	1.9%
27	クレジット・信販	1.9%
28	銀行(都銀・地銀)	1.7%
29	消費者金融・事業者金融	1.6%
30	国内生損保	1.4%

【社会的貢献度】		
順位	業種	%
1	ガス・電力	36.2%
2	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	33.8%
3	教育産業	31.5%
4	メーカー(化学・薬品)	28.0%
5	食品	27.1%
6	流通	25.2%
7	建設・住宅	22.9%
8	銀行(都銀・地銀)	22.9%
9	ドラッグストア	22.4%
10	通信	22.0%
11	メーカー(機械・電子・電気機器)	20.8%
12	フードサービス	20.1%
13	鉄鋼・非鉄金属	19.0%
14	メーカー(自動車・バイク)	18.3%
15	ホテル	18.3%
16	広告・マスコミ	17.0%
17	人材派遣・人材紹介	16.3%
18	国内生損保	16.1%
19	不動産	15.1%
20	ソフトウェア・情報処理	13.1%
21	旅行	12.7%
22	商社(総合)	11.9%
23	アミューズメント	11.5%
24	外資系金融(銀行・生損保・証券)	11.4%
25	コンサルティング	10.6%
26	カーディーラー	9.7%
27	クレジット・信販	9.1%
28	商品取引	8.2%
29	国内証券	7.5%
30	消費者金融・事業者金融	7.4%

【実力主義・能力主義】			【仕事のやりがい】			【スキル・経験が生かせる】		
順位	業種	%	順位	業種	%	順位	業種	%
1	コンサルティング	33.8%	1	広告・マスコミ	31.0%	1	ソフトウェア・情報処理	26.6%
2	外資系金融(銀行・生損保・証券)	32.3%	2	ホテル	29.9%	2	コンサルティング	16.3%
3	消費者金融・事業者金融	28.1%	3	教育産業	29.3%	3	メーカー(化学・薬品)	14.4%
4	カーディーラー	26.5%	4	コンサルティング	27.7%	4	メーカー(機械・電子・電気機器)	13.8%
5	広告・マスコミ	26.3%	5	旅行	26.8%	5	ホテル	12.0%
6	国内証券	26.2%	6	商社(総合)	21.7%	6	外資系金融(銀行・生損保・証)	11.6%
7	人材派遣・人材紹介	26.1%	7	アミューズメント	21.0%	7	教育産業	11.4%
8	商社(総合)	24.8%	8	メーカー(機械・電子・電気機器)	19.7%	8	広告・マスコミ	11.0%
9	商品取引	23.6%	9	食品	19.1%	9	メーカー(自動車・バイク)	10.9%
10	クレジット・信販	23.3%	10	メーカー(化学・薬品)	18.7%	10	国内証券	10.8%
11	ソフトウェア・情報処理	21.4%	11	人材派遣・人材紹介	18.7%	11	銀行(都銀・地銀)	10.6%
12	不動産	19.4%	12	フードサービス	17.1%	12	人材派遣・人材紹介	9.9%
13	国内生損保	18.7%	13	メーカー(自動車・バイク)	15.6%	13	商社(総合)	9.7%
14	建設・住宅	14.4%	14	ソフトウェア・情報処理	14.5%	14	建設・住宅	9.6%
15	アミューズメント	12.7%	15	流通	14.5%	15	旅行	9.4%
16	フードサービス	12.6%	16	カーディーラー	14.4%	16	通信	9.2%
17	旅行	12.0%	17	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	14.3%	17	食品	7.7%
18	通信	11.8%	18	建設・住宅	14.2%	18	不動産	7.6%
19	流通	11.1%	19	通信	12.8%	19	国内生損保	7.4%
20	銀行(都銀・地銀)	10.7%	20	外資系金融(銀行・生損保・証券)	12.7%	20	ドラッグストア	7.3%
21	教育産業	10.7%	21	国内証券	12.2%	21	カーディーラー	7.3%
22	ホテル	10.2%	22	不動産	11.4%	22	鉄鋼・非鉄金属	6.7%
23	ドラッグストア	8.8%	23	銀行(都銀・地銀)	11.0%	23	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	6.2%
24	メーカー(化学・薬品)	8.2%	24	ドラッグストア	10.8%	24	フードサービス	5.7%
25	メーカー(自動車・バイク)	7.2%	25	ガス・電力	10.7%	25	ガス・電力	5.6%
26	メーカー(機械・電子・電気機器)	6.2%	26	商品取引	10.1%	26	商品取引	5.2%
27	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	4.7%	27	鉄鋼・非鉄金属	10.0%	27	流通	4.3%
28	食品	4.6%	28	国内生損保	8.6%	28	クレジット・信販	4.2%
29	鉄鋼・非鉄金属	4.4%	29	クレジット・信販	7.5%	29	アミューズメント	4.0%
30	ガス・電力	3.0%	30	消費者金融・事業者金融	5.6%	30	消費者金融・事業者金融	3.7%

【職場環境(オフィス・立地・労働時間等)】			【家族・友人に話せるステータス】		
順位	業種	%	順位	業種	%
1	銀行(都銀・地銀)	19.7%	1	商社(総合)	32.4%
2	外資系金融(銀行・生損保・証券)	11.8%	2	広告・マスコミ	31.9%
3	国内生損保	11.3%	3	銀行(都銀・地銀)	31.8%
4	商社(総合)	11.2%	4	外資系金融(銀行・生損保・証券)	30.3%
5	ホテル	10.8%	5	メーカー(自動車・バイク)	22.2%
6	ガス・電力	9.3%	6	ガス・電力	20.2%
7	広告・マスコミ	8.4%	7	国内証券	18.7%
8	国内証券	8.2%	8	メーカー(機械・電子・電気機器)	17.8%
9	メーカー(機械・電子・電気機器)	8.1%	9	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	17.1%
10	食品	8.0%	10	コンサルティング	16.6%
11	クレジット・信販	7.3%	11	ホテル	16.0%
12	運輸(鉄道・陸運・海運・空輸)	7.2%	12	食品	15.7%
13	コンサルティング	7.1%	13	旅行	15.3%
14	ソフトウェア・情報処理	7.0%	14	国内生損保	14.4%
15	ドラッグストア	6.9%	15	メーカー(化学・薬品)	13.9%
16	通信	6.6%	16	通信	13.0%
17	不動産	6.5%	17	教育産業	11.2%
18	人材派遣・人材紹介	6.3%	18	鉄鋼・非鉄金属	8.8%
19	消費者金融・事業者金融	6.0%	19	建設・住宅	8.6%
20	メーカー(化学・薬品)	5.8%	20	不動産	8.4%
21	メーカー(自動車・バイク)	5.7%	21	ソフトウェア・情報処理	7.3%
22	アミューズメント	5.3%	22	カーディーラー	6.5%
23	教育産業	5.3%	23	クレジット・信販	5.6%
24	カーディーラー	4.7%	24	アミューズメント	4.7%
25	商品取引	4.4%	25	流通	4.1%
26	流通	4.4%	26	ドラッグストア	4.1%
27	旅行	4.4%	27	商品取引	3.4%
28	建設・住宅	3.6%	28	フードサービス	3.3%
29	鉄鋼・非鉄金属	3.5%	29	消費者金融・事業者金融	3.1%
30	フードサービス	2.6%	30	人材派遣・人材紹介	2.8%

図 2-5 業界別プラスイメージ調査

(毎日コミュニケーションズ「業界イメージ調査」2007 年)

(2) 大学側のイメージ

図 2-6 は、大学側の情報サービス産業に対するイメージ調査のデータである。このデータによると、情報サービス産業を基幹産業であると認め、成長を期待している一方で、人を大切にする産業であるという項目については、否定的な回答が約 70%を占めた。その理由として、仕事や労働環境についての回答から、情報サービス産業を、「仕事と家庭の両立が難しい労働環境」「長時間労働や残業が多い」と認識している大学が多いことが推察できる。この調査の結果によれば、情報サービス産業を、最も学生に薦める業種と回答した大学は約 3 割にとどまっている。

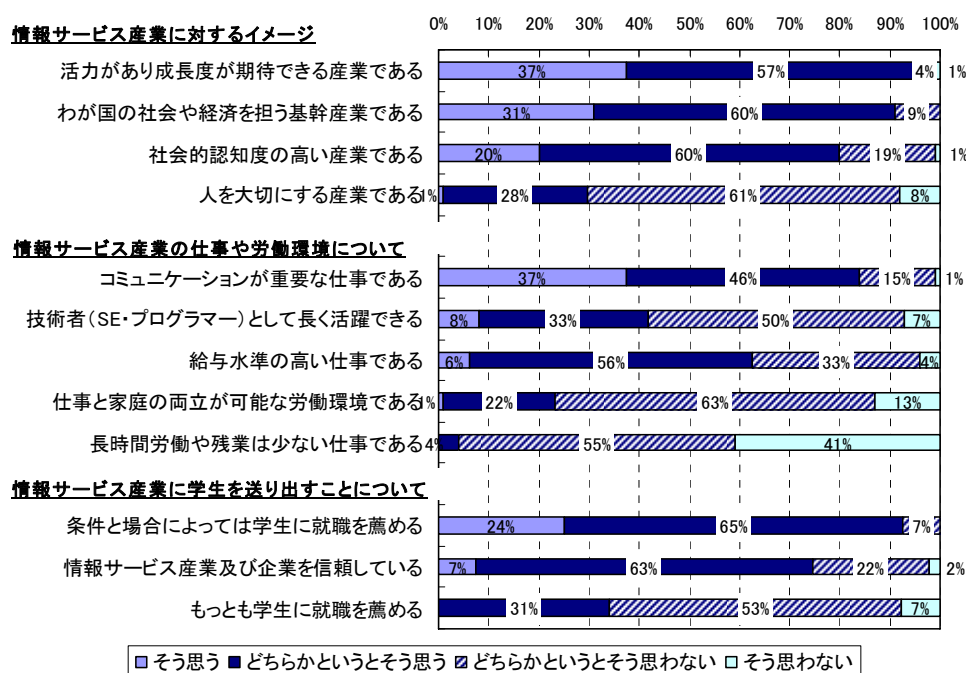


図 2-6 情報サービス産業に対する認知度・イメージ

(JISA「情報サービス産業に対するイメージに関するアンケート調査」2006 年 11 月)

1.4 情報サービス産業における採用活動の現状

図 2-7 は、情報サービス産業協会（JISA）会員企業を対象として調査における、採用活動に関する企業の認識を示すデータである。この結果によると、90%を超える企業が本年度の採用活動を「厳しい」と評価し、今後も厳しい状況であると判断している。

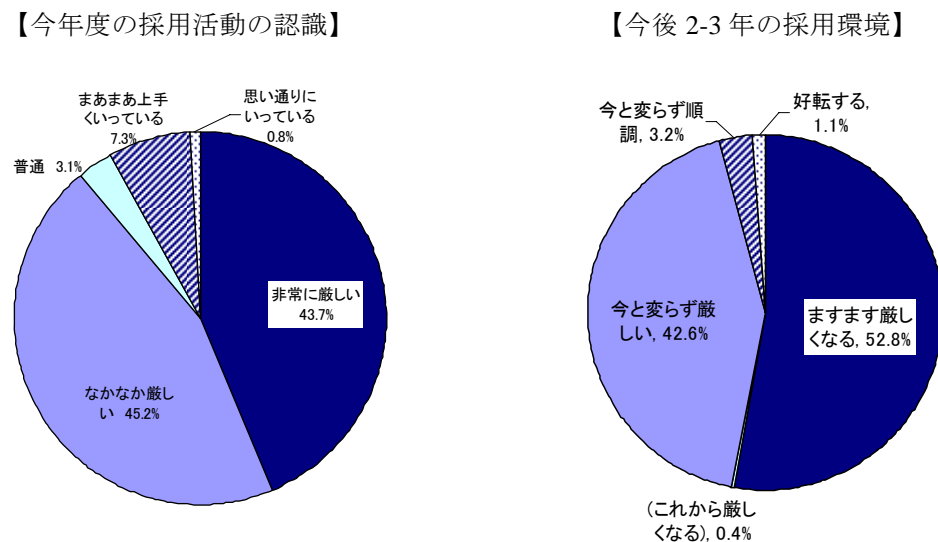
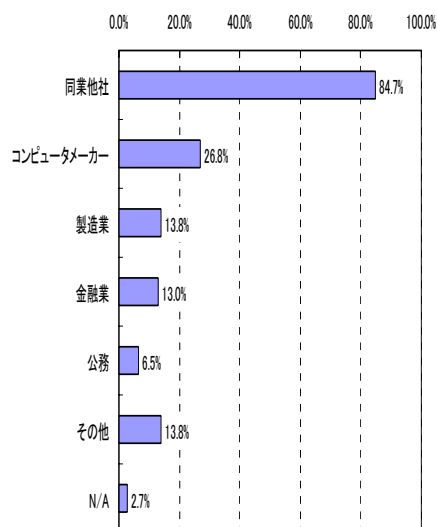


図 2-7 採用活動に関する企業の認識
（JISA「新卒採用に関する緊急アンケート調査」2006 年 9 月）

図 2-8 は、同じく情報サービス産業協会（JISA）会員企業を対象とした調査の「内定辞退者の行き先」および「企業の採用力を決める要因」を示すデータである。JISA 会員企業の内定辞退者のうち、同業他社に行く割合が 8 割を超えており、業界内での新卒人材の争奪が過熱していると言える。また、企業の採用活動を左右する要因としては、「会社の知名度」や「企業の体質・企業風土」「教育体制」と回答した企業が多い。

【内定辞退者が主に行っている企業・産業】



【企業の採用活動を左右する要因（採用力）】

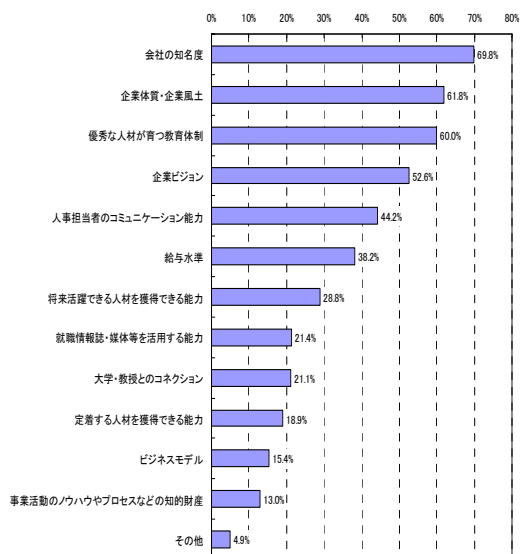


図 2-8 内定辞退者の行き先および企業の採用力を決める要因

（JISA「新卒採用に関する緊急アンケート調査」2006年9月）

2. 予備調査結果

2.1 調査概要

文献・Web 調査やヒアリング調査の結果をふまえ、本調査では、大学生（学部 3 年生以上）と大学院生を対象として、Web アンケートを実施した。

(1) 調査対象

大学在籍中の学部 3 年、4 年生、大学院の学生 1,000 名を対象とし、Web アンケートを実施した。情報系や理工系の学生だけでなく、文系学生などから幅広く意見を収集し、比較分析を行う目的から、本調査では、情報系、理系（情報系以外）、文系を対象とした。（調査対象の詳細は、回答者の属性を参照。）

(2) 調査実施期間

2007 年 7 月中旬

(3) 調査項目

学生向けアンケートの調査項目は以下のとおりである。

① 属性情報

- ・ 性別
- ・ 居住地域
- ・ 学年

② 専攻分野とその選択理由

- ・ 専攻分野
- ・ 現在の専攻分野を選択した理由
- ・ 専攻分野選択の際に、志望する職業とのつながりを考慮したか
- ・ 就職先選択の際に、専攻とのつながりを考慮するか

③ 希望する就職先と業界別イメージ

- ・ 就職を希望する業界とその理由
- ・ 業界別イメージ

④ I T に関する仕事への興味

- ・ I T に関する仕事への興味の有無とその理由
- ・ 興味のある I T に関する仕事（職種）
- ・ やりがいのある仕事の条件
- ・ I T に関する仕事とやりがいのある仕事の条件

2.2 調査結果

(1) 回答者の属性

① 性別

回答者の性別の内訳を図 2-9 に示す。

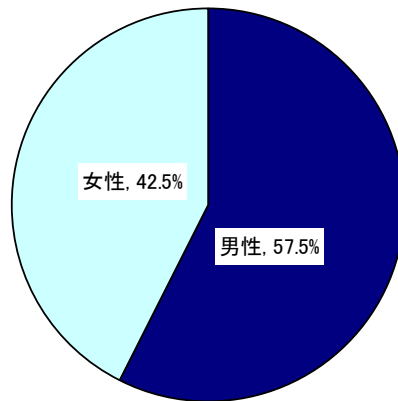


図 2-9 回答者の性別

② 居住地域

回答者の居住者の内訳を図 2-10 に示す。

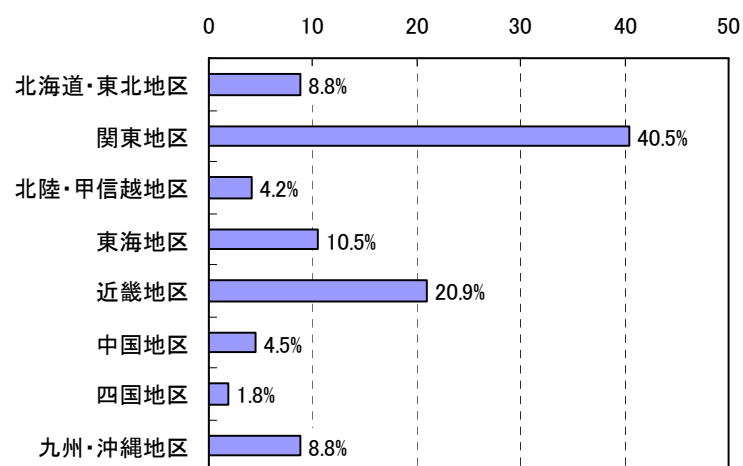


図 2-10 回答者の居住地域

③ 学年

回答者の学年の内訳を図 2-11 に示す。大学 3・4 年生が約 7 割、修士課程（1・2 年生）が約 2 割を占める。

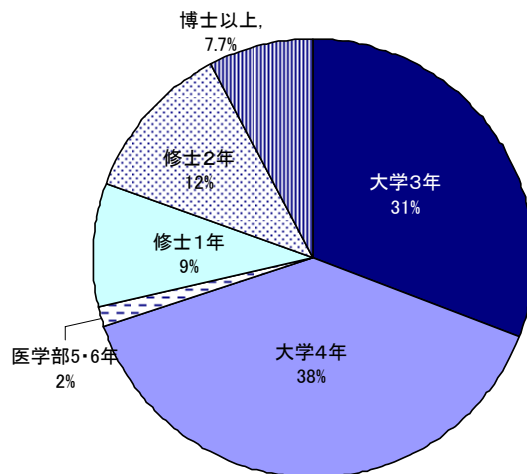


図 2-11 回答者の学年

(2) 専攻分野とその選択理由

① 回答者の専攻分野の内訳

回答者の専攻の内訳を図 2-12 に示す。本調査では、文系 500 名、情報系 100 名、理系（情報系以外）400 名の計 1000 名を対象とした。なお、情報系とは、情報科学・情報工学を専攻する学生を示す。文系、理系（情報系以外）の専攻内容の詳細は図 4-13 を参照。

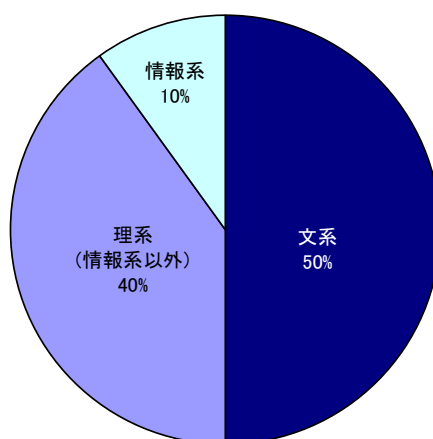


図 2-12 回答者の専攻分野

※情報系とは、情報科学・情報工学を専攻する学生を示す。

文系は、人文系と社会系が文系回答者の大半を占める。情報系以外の理系では工学系の回答者が半数を占める。

専攻		N	%
文系	人文系	204	20.4%
	社会系	253	25.3%
	芸術系	25	2.5%
	家政学系	10	1.0%
	その他文系	8	0.8%
理系(情報系以外)	理学系	79	7.9%
	工学系	188	18.8%
	農学系	36	3.6%
	医歯薬学系	88	8.8%
	その他理系	9	0.9%
	情報系	100	10.0%
	合計	1000	100.0%

図 2-13 回答者の専攻分野の内訳（詳細）

② 現在の専攻分野を選択した理由

今回の調査では、卒業後に就職する「産業」や「仕事」のイメージが、学生の専攻（進路）選択に影響を与えているのではないかという問題意識のもとに、学生が現在の専攻分野を選択した理由を尋ねた。

図 2-14 に、その結果を示す。これによると、「最も興味がある分野だから」という理由が最も多く、次に「自分に向いていると思ったから」が続き、自分の興味・適性を重視して専攻を選択している回答が上位に挙げられる結果となった。また、「その分野と関連する仕事に就きたいから」「幅広い仕事に生かせる分野だから」など、将来の仕事とのつながりを考慮して専攻を選択する学生は半数近くに上っている。

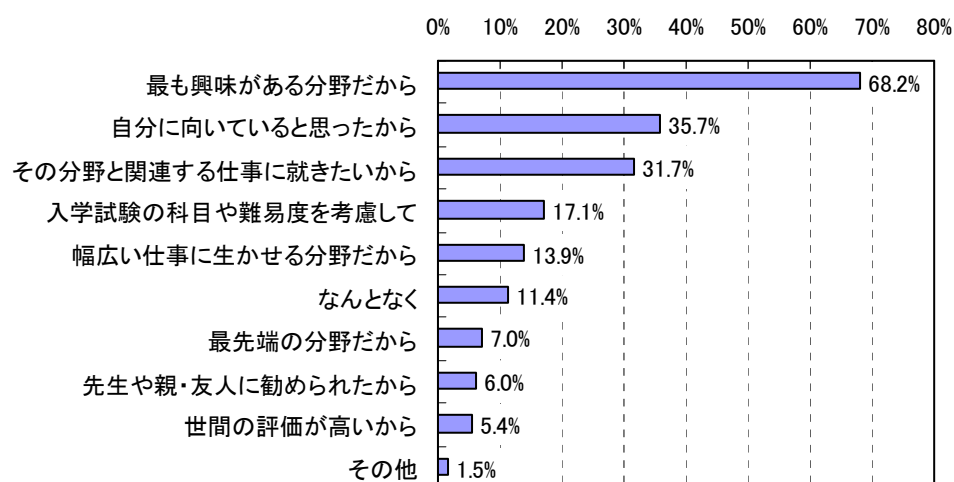


図 2-14 現在の専攻を選択した理由

③ 専攻分野選択の際に、希望する職業とのつながりを考慮したか

図 2-15 は、専攻分野選択の際に希望する職業とのつながりを考慮したかを尋ねた設問の結果である。この結果によると、「自分が希望する仕事に直結する専攻を選んだ」「自分が希望する仕事に関係のある専攻を選んだ」を併せると、全体の半数を超える。「幅広い仕事に生かせる専攻を選んだ」まで含めると、約 7 割の学生が、将来の仕事を考慮して専攻を選択していると言える。

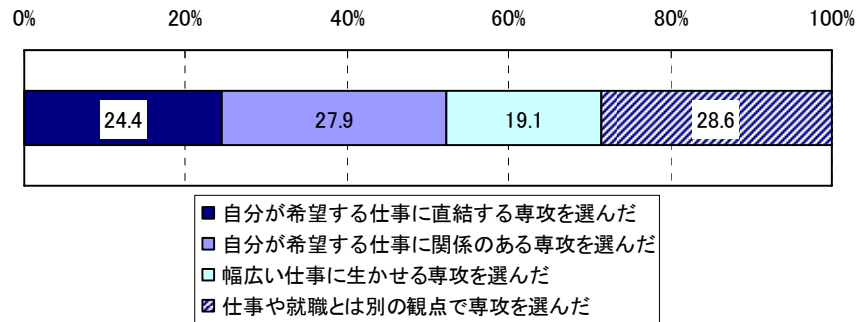


図 2-15 専攻分野選択の際に希望する職業とのつながりを考慮したか

図 2-16 は、図 2-15 を、専攻別（文系、理系（情報系以外）、情報系）に集計した結果である。この結果によると、希望する仕事とつながりのある専攻を選んだ学生は、理系（情報系以外）が最も多い。

以上の結果から、学生は、ある程度希望する職業と専攻を関連付けて選択する傾向がみられ、特に理系（情報系を含む）の学生に、この傾向が顕著にみられる。

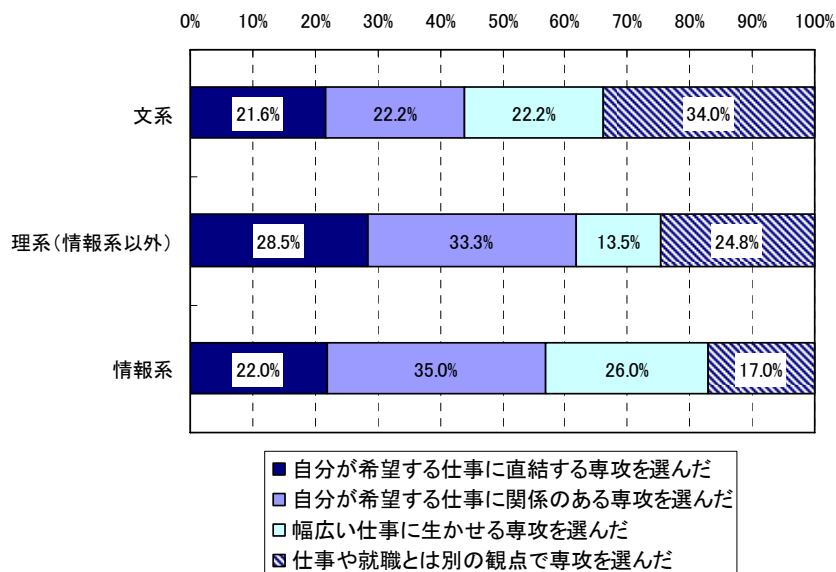


図 2-16 専攻分野選択の際に希望する職業とのつながりを考慮したか（専攻別）

④ 就職先選択の際に、専攻とのつながりを考慮するか

図 2-17 は、就職先を決める際に、専攻とのつながりを考慮するかを尋ねた設問の結果である。この結果によると、約 8 割の学生が、何らかの形で専攻を生かした仕事に就きたいと希望していることが読み取れる。また、専攻と職業とのつながりを重視しない学生は 3 割程度であり、これは「③専攻分野選択の際に、志望する職業とのつながりを考慮したか」の結果と概ね合致する。

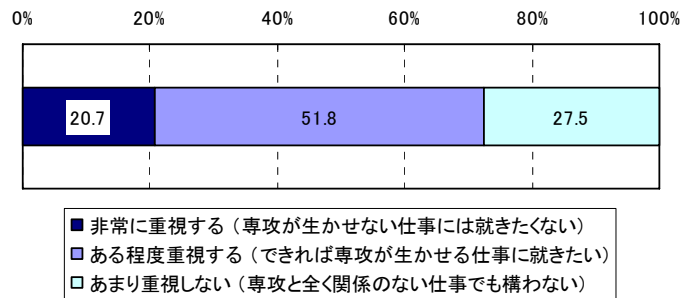


図 2-17 就職先選択の際に、専攻とのつながりを重視するか

図 2-18 は、図 2-17 を専攻別に集計した結果である。この結果によると、8 割以上の理系 (情報系以外)、情報系の学生が専攻と就職先を重視しているのに対し、文系の学生は比較的専攻と就職先のつながりを重視しない傾向にある。

以上の結果から、学生の就職先は、専攻分野の選択の段階で、ある程度方向付けされると言える。よって、専攻分野の選択と就職先の選択の双方の局面において、学生が産業や仕事に対して持つイメージ等が大きな影響を与える可能性があると考えられる。

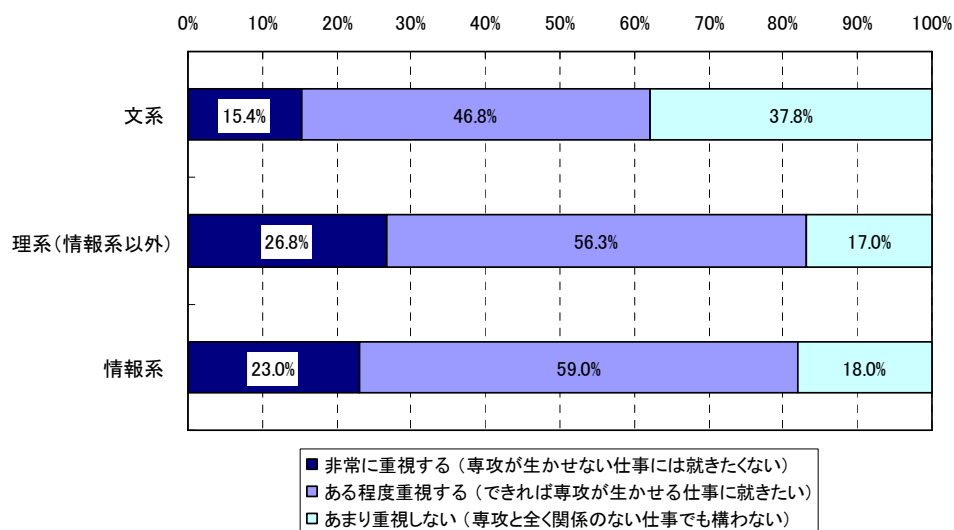


図 2-18 就職先選択の際に、専攻とのつながりを重視するか (専攻別)

(3) 就職を希望する産業と産業イメージ

① 就職を希望する産業

図 2-19 は、学生に対して、就職してもよいと考えている産業を尋ねた結果である。

なお、今回の調査では、回答者 1,000 名中、情報系専攻者が 100 名（構成比 10%）と、実際の専攻分野別の学生の比率よりも、かなり情報系専攻者の割合が高いため、集計の際に、回答結果に対して、実際の学生の文系・理系・情報系の比率に沿って、重み付けを行った。ウェイトバック集計にあたっては、文部科学省の調査結果、および、東京大学武市教授の調査結果より、大学卒業生数を年間計 50 万人、理工系卒業生数を年間計 10 万人、情報系学科卒業生数を年間計約 1.5 万人として、構成比を算出した。

この結果によると、公務員、マスコミ、金融、商社など、従来から学生に人気が高いと思われる産業が、今回の調査においても高く評価されている。「ソフトウェア・情報処理」業界は、全 24 業種中 8 位という結果となった。しかし、全 24 業種中の第 8 位であるため、全体の中では、中位に位置付けられていると言える。

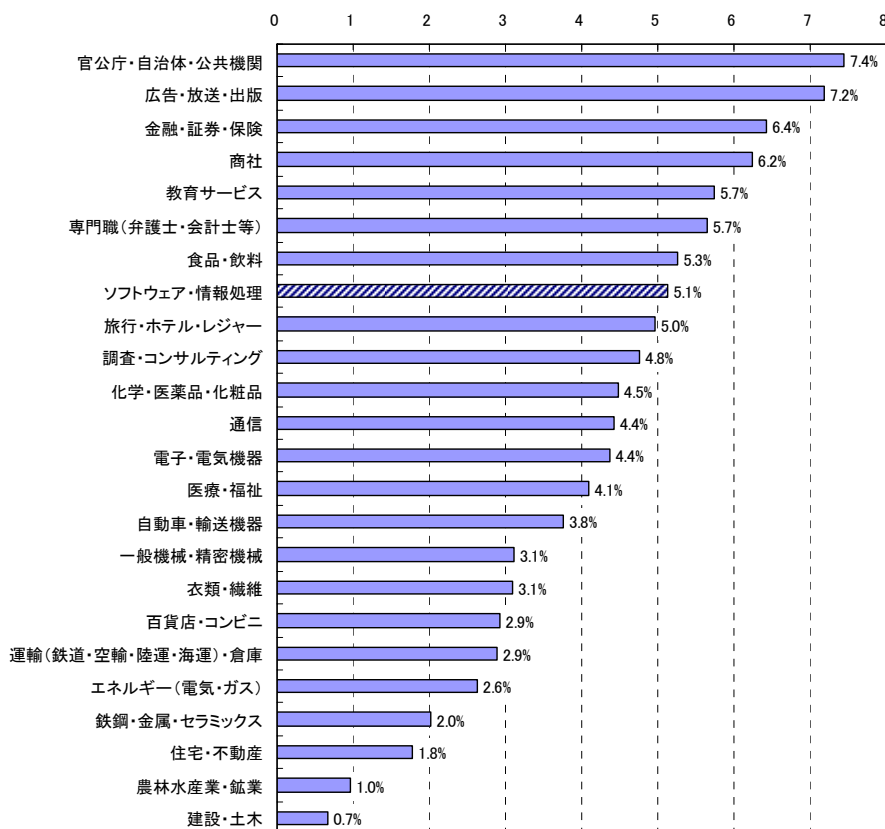


図 2-19 就職を希望する産業

図 2-20 は、図 2-19 を専攻別に集計した結果である。この結果によると、情報系の学生の回答としては、「ソフトウェア・情報処理」産業が 1 位となっており、8 割近い情報系学生が、「ソフトウェア・情報処理」産業への就職を希望している。文系では、24 業界中 10 位、理系（情報系以外）では 7 位であったが、全体としてみれば、順位はそれほど低迷しているわけではないとみられる。

順位	文系	%	順位	理系(情報系外)	%	順位	情報系	%
1	広告・放送・出版	33.8	1	化学・医薬品・化粧品	37.5	1	ソフトウェア・情報処理	78.0
2	官公庁・自治体・公共機関	30.2	2	官公庁・自治体・公共機関	28.0	2	通信	50.0
3	金融・証券・保険	30.0	3	電子・電気機器	27.0	3	電子・電気機器	47.0
4	商社	29.2	4	医療・福祉	25.8	4	一般機械・精密機械	22.0
5	教育サービス	28.4	5	自動車・輸送機器	24.0	5	自動車・輸送機器	21.0
6	専門職(弁護士・会計士等)	26.4	6	食品・飲料	24.0	6	官公庁・自治体・公共機関	20.0
7	旅行・ホテル・レジャー	23.8	7	一般機械・精密機械	22.8	7	調査・コンサルティング	18.0
8	調査・コンサルティング	21.0	8	ソフトウェア・情報処理	20.8	8	広告・放送・出版	17.0
9	食品・飲料	20.6	9	エネルギー(電気・ガス)	17.3	9	エネルギー(電気・ガス)	14.0
10	ソフトウェア・情報処理	18.0	10	鉄鋼・金属・セラミックス	14.8	10	金融・証券・保険	14.0
11	通信	17.4	11	通信	13.0	11	商社	10.0
12	医療・福祉	14.2	12	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	10.5	12	教育サービス	9.0
13	電子・電気機器	13.8	13	調査・コンサルティング	10.3	13	医療・福祉	9.0
14	百貨店・コンビニ	13.8	14	教育サービス	10.0	14	食品・飲料	8.0
15	化学・医薬品・化粧品	13.4	15	農林水産業・鉱業	10.0	15	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	8.0
16	衣類・繊維	13.2	16	衣類・繊維	9.5	16	専門職(弁護士・会計士等)	8.0
17	自動車・輸送機器	12.4	17	商社	8.8	17	百貨店・コンビニ	7.0
18	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	11.8	18	広告・放送・出版	8.5	18	旅行・ホテル・レジャー	7.0
19	一般機械・精密機械	9.4	19	金融・証券・保険	8.5	19	鉄鋼・金属・セラミックス	6.0
20	エネルギー(電気・ガス)	8.6	20	専門職(弁護士・会計士等)	8.3	20	化学・医薬品・化粧品	6.0
21	住宅・不動産	8.2	21	建設・土木	6.0	21	衣類・繊維	5.0
22	鉄鋼・金属・セラミックス	6.4	22	旅行・ホテル・レジャー	4.5	22	建設・土木	3.0
23	農林水産業・鉱業	2.4	23	百貨店・コンビニ	3.3	23	住宅・不動産	3.0
24	建設・土木	1.8	24	住宅・不動産	3.0	24	農林水産業・鉱業	1.0

図 2-20 就職を希望する産業（専攻別）

② 就職を希望する産業を選んだ理由

図 2-21 は、就職を希望する産業を選んだ理由を尋ねる設問の結果である。これによると、「仕事内容がおもしろそうだから」が最も多く、その次に「自分の専攻が活かせるから」という回答が続く結果となった。

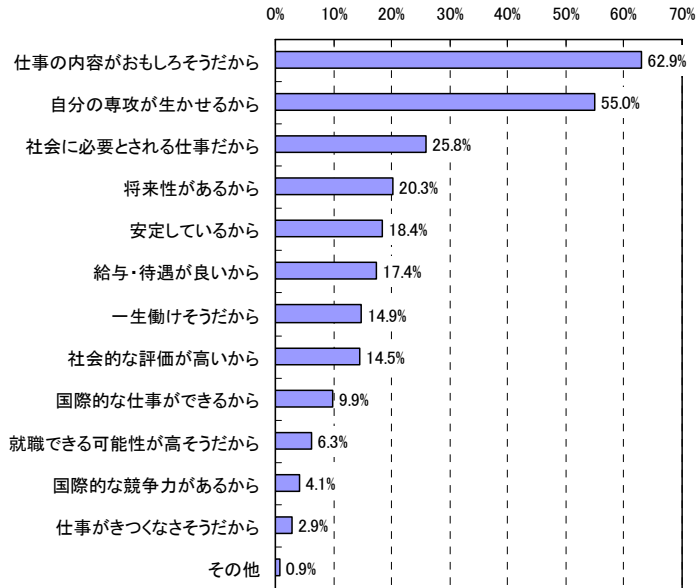


図 2-21 就職を希望する産業を選んだ理由

以下は、図 2-21 を、専攻別に集計した結果である。この結果によれば、理系（情報系を含む）では、「自分の専攻が生かせるから」と回答した学生が最も多い。

一方、専攻が生かせるかどうかを重視する理系に対して、文系の学生は、「給与・待遇が良いから」「社会的な評価が高いから」などの理由で産業を選ぶ傾向がある。

また、情報系の学生は、他専攻の学生よりも、「将来性があるから」との理由がやや多いほか、「一生働けそうだから」「国際的な競争力があるから」などの理由を選択した学生が少ない。

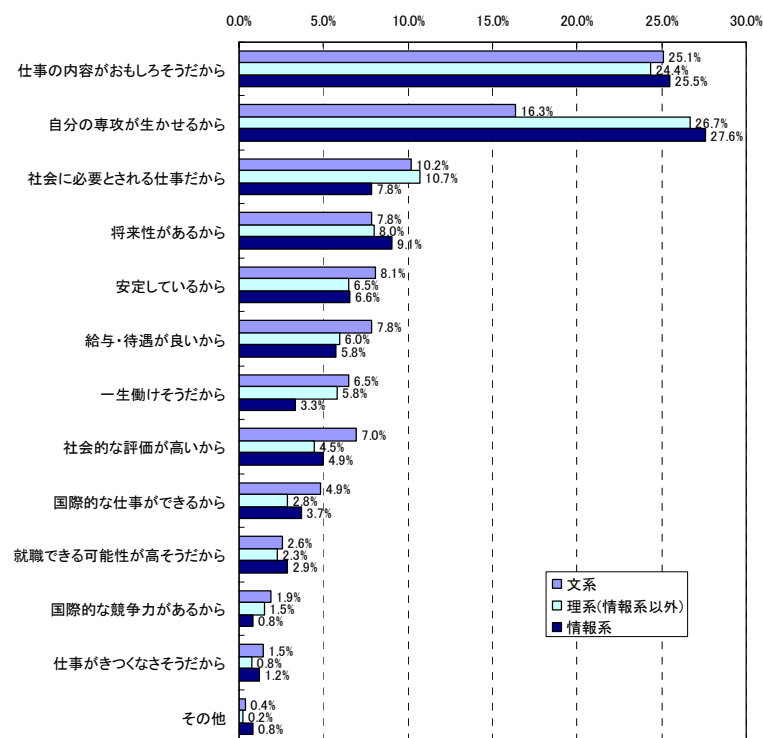


図 2-22 就職を希望する産業を選んだ理由（専攻別）

③ 産業イメージ

今回の調査では、情報サービス・ソフトウェア産業に対するイメージの把握を主な目的として、「人気が高くて就職が難しい業界」、「就職の際に高い専門性が求められる業界」、「優秀な学生が就職する業界」、「働いている人たちの満足度が高い業界」、「今後の日本を支えていく業界」に、それぞれ当てはまると思う産業を、学生に尋ねた。

図 2-23 はこの設問の結果である。これによると、「ソフトウェア・情報処理」業界は、「就職の際に高い専門性が求められる」、「今後の日本を支えていく」などの点において、比較的高く評価されていることが明らかになった。「ソフトウェア・情報処理」業界の将来性は、学生の間でも比較的高く評価されているとみられる。

一方、「優秀な学生が就職する」、「人気が高く就職が難しい」などの点についての評価は、それほど高くない結果となった。

【就職の際に高い専門性が求められる】			【今後の日本を支えていく】			【人気が高く就職が難しい】		
順位	業界	%	順位	業界	%	順位	業界	%
1	専門職(弁護士・会計士等)	55.7	1	医療・福祉	34.2	1	官公庁・自治体・公共機関	42.4
2	医療・福祉	44.0	2	自動車・輸送機器	33.1	2	広告・放送・出版	39.3
3	化学・医薬品・化粧品	33.0	3	官公庁・自治体・公共機関	32.5	3	商社	30.1
4	電子・電気機器	29.5	4	電子・電気機器	23.6	4	専門職(弁護士・会計士等)	29.3
5	ソフトウェア・情報処理	24.1	5	ソフトウェア・情報処理	19.2	5	自動車・輸送機器	26.9
6	一般機械・精密機械	18.2	6	エネルギー(電気・ガス)	18.1	6	金融・証券・保険	26.6
7	自動車・輸送機器	15.0	7	一般機械・精密機械	16.6	7	旅行・ホテル・レジャー	16.7
8	官公庁・自治体・公共機関	10.1	8	専門職(弁護士・会計士等)	15.4	8	医療・福祉	12.0
9	鉄鋼・金属・セラミックス	10.0	9	教育サービス	15.1	9	化学・医薬品・化粧品	11.4
10	金融・証券・保険	9.7	10	化学・医薬品・化粧品	14.5	10	ソフトウェア・情報処理	9.2
11	建設・土木	8.9	11	通信	12.3	11	電子・電気機器	8.6
12	教育サービス	5.7	12	金融・証券・保険	9.9	12	調査・コンサルティング	7.2
13	調査・コンサルティング	5.4	13	鉄鋼・金属・セラミックス	9.5	13	食品・飲料	6.6
14	エネルギー(電気・ガス)	4.9	14	農林水産業・鉱業	9.1	14	エネルギー(電気・ガス)	5.8
15	通信	4.2	15	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	6.3	15	一般機械・精密機械	4.7
16	農林水産業・鉱業	3.8	16	商社	5.9	16	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	4.7
17	広告・放送・出版	3.3	17	食品・飲料	4.9	17	教育サービス	4.4
18	商社	3.2	18	調査・コンサルティング	4.2	18	通信	4.1
19	食品・飲料	2.7	19	広告・放送・出版	3.6	19	衣類・繊維	2.8
20	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	2.6	20	建設・土木	3.5	20	百貨店・コンビニ	2.3
21	旅行・ホテル・レジャー	1.9	21	百貨店・コンビニ	2.8	21	鉄鋼・金属・セラミックス	1.6
22	衣類・繊維	1.8	22	衣類・繊維	2.5	22	建設・土木	1.6
23	百貨店・コンビニ	1.6	23	旅行・ホテル・レジャー	1.6	23	住宅・不動産	1.4
24	住宅・不動産	0.7	24	住宅・不動産	1.6	24	農林水産業・鉱業	0.3

【働いている人たちの満足度が高い】			【優秀な学生が就職する】		
順位	業界	%	順位	業界	%
1	専門職(弁護士・会計士等)	30.6	1	専門職(弁護士・会計士等)	61.2
2	官公庁・自治体・公共機関	28.1	2	官公庁・自治体・公共機関	45.7
3	広告・放送・出版	26.1	3	医療・福祉	30.9
4	自動車・輸送機器	23	4	商社	22.4
5	旅行・ホテル・レジャー	21.3	5	金融・証券・保険	22.3
6	商社	19.6	6	自動車・輸送機器	17.5
7	医療・福祉	17.5	7	化学・医薬品・化粧品	17.1
8	金融・証券・保険	13.9	8	広告・放送・出版	12.5
9	教育サービス	11.8	9	電子・電気機器	11.8
10	ソフトウェア・情報処理	10.9	10	調査・コンサルティング	9.8
11	化学・医薬品・化粧品	10.4	11	ソフトウェア・情報処理	9.6
12	食品・飲料	9.8	12	一般機械・精密機械	7.3
13	調査・コンサルティング	9.1	13	エネルギー(電気・ガス)	5.7
14	百貨店・コンビニ	8.9	14	鉄鋼・金属・セラミックス	3.6
15	電子・電気機器	8.8	15	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	3.5
16	衣類・繊維	8.1	16	教育サービス	3.1
17	エネルギー(電気・ガス)	7.6	17	旅行・ホテル・レジャー	2.9
18	一般機械・精密機械	6.7	18	通信	2.8
19	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	5.4	19	食品・飲料	2.4
20	通信	5.2	20	百貨店・コンビニ	1.9
21	建設・土木	4.6	21	衣類・繊維	1.8
22	農林水産業・鉱業	4.6	22	建設・土木	1.8
23	鉄鋼・金属・セラミックス	4.4	23	住宅・不動産	1.3
24	住宅・不動産	3.6	24	農林水産業・鉱業	1.1

図 2-23 産業イメージ

図 2-24 は、図 2-23 を、専攻別に集計した結果である。専攻によって、順位に若干変動があるが、どの専攻においても、「働いている人たちの満足度が高い」、「優秀な学生が就職する」などの項目については、「ソフトウェア・情報処理」業界に対する評価は、それほど高くはない。また、情報系の学生は、「今後の日本を支えていく」として、「ソフトウェア・

情報処理」業界を高く評価しているなど、全体的に、「ソフトウェア・情報処理」業界に対して良いイメージを持っていることがうかがえる。

<人気が高くて就職が難しい>

文系	順位	%
広告・放送・出版	1	45.6
官公庁・自治体・公共機関	2	40.4
商社	3	30.6
専門職(弁護士・会計士等)	4	29.4
金融・証券・保険	5	26.2
自動車・輸送機器	6	24.4
旅行・ホテル・レジャー	7	21.8
医療・福祉	8	9.6
電子・電気機器	9	8.2
ソフトウェア・情報処理	10	7.2
食品・飲料	11	7.0
調査・コンサルティング	12	6.8
化学・医薬品・化粧品	13	6.6
エネルギー(電気・ガス)	14	5.8
一般機械・精密機械	15	5.2

理系(情報系以外)	順位	%
官公庁・自治体・公共機関	1	43.5
広告・放送・出版	2	31.8
商社	3	30.5
専門職(弁護士・会計士等)	4	29.8
自動車・輸送機器	5	29.0
金融・証券・保険	6	27.8
化学・医薬品・化粧品	7	18.8
医療・福祉	8	14.5
旅行・ホテル・レジャー	9	11.0
ソフトウェア・情報処理	10	10.3
電子・電気機器	11	8.8
調査・コンサルティング	12	8.3
食品・飲料	13	7.0
エネルギー(電気・ガス)	14	5.0
運輸(鉄道・空輸・海運)・倉庫	15	4.8

情報系	順位	%
官公庁・自治体・公共機関	1	48.0
広告・放送・出版	2	38.0
自動車・輸送機器	3	31.0
専門職(弁護士・会計士等)	4	27.0
商社	5	26.0
金融・証券・保険	6	24.0
ソフトウェア・情報処理	7	15.0
旅行・ホテル・レジャー	8	14.0
医療・福祉	9	14.0
電子・電気機器	10	10.0
エネルギー(電気・ガス)	11	9.0
一般機械・精密機械	12	6.0
化学・医薬品・化粧品	13	6.0
教育サービス	14	5.0
調査・コンサルティング	15	5.0

<就職の際に高い専門性が求められる>

文系	順位	%
専門職(弁護士・会計士等)	1	59.8
医療・福祉	2	42.6
化学・医薬品・化粧品	3	28.0
電子・電気機器	4	26.6
ソフトウェア・情報処理	5	25.2
一般機械・精密機械	6	17.4
官公庁・自治体・公共機関	7	12.8
自動車・輸送機器	8	11.2
鉄鋼・金属・セラミックス	9	10.8
金融・証券・保険	10	10.4
建設・土木	11	8.4
教育サービス	12	7.6
調査・コンサルティング	13	6.4
農林水産業・鉱業	14	5.4
商社	15	4.8

理系(情報系以外)	順位	%
専門職(弁護士・会計士等)	1	52.3
医療・福祉	2	45.3
化学・医薬品・化粧品	3	39.0
電子・電気機器	4	35.5
ソフトウェア・情報処理	5	21.8
一般機械・精密機械	6	20.0
自動車・輸送機器	7	19.0
建設・土木	8	9.3
鉄鋼・金属・セラミックス	9	8.5
金融・証券・保険	10	7.8
官公庁・自治体・公共機関	11	7.8
エネルギー(電気・ガス)	12	7.3
通信	13	4.5
調査・コンサルティング	14	4.3
教育サービス	15	3.5

情報系	順位	%
専門職(弁護士・会計士等)	1	49.0
医療・福祉	2	46.0
化学・医薬品・化粧品	3	34.0
ソフトウェア・情報処理	4	28.0
電子・電気機器	5	20.0
自動車・輸送機器	6	18.0
一般機械・精密機械	7	15.0
金融・証券・保険	8	14.0
鉄鋼・金属・セラミックス	9	12.0
エネルギー(電気・ガス)	10	10.0
建設・土木	11	10.0
通信	12	9.0
官公庁・自治体・公共機関	13	6.0
教育サービス	14	5.0
調査・コンサルティング	15	5.0

<優秀な学生が就職する>

文系	順位	%
専門職(弁護士・会計士等)	1	64.6
官公庁・自治体・公共機関	2	49.0
商社	3	27.4
医療・福祉	4	26.8
金融・証券・保険	5	25.4
広告・放送・出版	6	14.2
自動車・輸送機器	7	13.4
化学・医薬品・化粧品	8	12.2
電子・電気機器	9	9.8
調査・コンサルティング	10	9.2
ソフトウェア・情報処理	11	8.6
一般機械・精密機械	12	6.6
エネルギー(電気・ガス)	13	5.6
運輸(鉄道・空輸・海運)・倉庫	14	3.8
鉄鋼・金属・セラミックス	15	3.6

理系(情報系以外)	順位	%
専門職(弁護士・会計士等)	1	57.0
官公庁・自治体・公共機関	2	42.5
医療・福祉	3	34.0
化学・医薬品・化粧品	4	23.8
自動車・輸送機器	5	23.5
金融・証券・保険	6	18.5
商社	7	16.8
電子・電気機器	8	13.8
調査・コンサルティング	9	12.0
広告・放送・出版	10	10.5
ソフトウェア・情報処理	11	10.3
一般機械・精密機械	12	8.8
エネルギー(電気・ガス)	13	5.8
鉄鋼・金属・セラミックス	14	3.8
通信	15	3.0

情報系	順位	%
専門職(弁護士・会計士等)	1	61.0
官公庁・自治体・公共機関	2	42.0
医療・福祉	3	39.0
金融・証券・保険	4	22.0
商社	5	20.0
化学・医薬品・化粧品	6	15.0
自動車・輸送機器	7	14.0
電子・電気機器	8	14.0
広告・放送・出版	9	12.0
ソフトウェア・情報処理	10	12.0
運輸(鉄道・空輸・海運)・倉庫	11	6.0
エネルギー(電気・ガス)	12	6.0
一般機械・精密機械	13	5.0
食品・飲料	14	5.0
旅行・ホテル・レジャー	15	5.0

<働いている人たちの満足度が高い>

文系	順位	%
専門職(弁護士・会計士等)	1	31.2
官公庁・自治体・公共機関	2	30.4
広告・放送・出版	3	28.2
旅行・ホテル・レジャー	4	22.6
商社	5	21.0
自動車・輸送機器	6	20.4
医療・福祉	7	15.4
教育サービス	8	14.4
金融・証券・保険	9	14.0
ソフトウェア・情報処理	10	11.0
百貨店・コンビニ	11	10.8
食品・飲料	12	10.0
化学・医薬品・化粧品	13	9.2
衣料・繊維	14	9.0
調査・コンサルティング	15	9.0

理系(情報系以外)	順位	%
専門職(弁護士・会計士等)	1	31.8
自動車・輸送機器	2	26.0
官公庁・自治体・公共機関	3	25.3
広告・放送・出版	4	23.8
旅行・ホテル・レジャー	5	20.5
医療・福祉	6	19.5
商社	7	18.5
金融・証券・保険	8	14.0
電子・電気機器	9	12.5
化学・医薬品・化粧品	10	12.5
ソフトウェア・情報処理	11	10.5
食品・飲料	12	9.5
調査・コンサルティング	13	8.8
教育サービス	14	8.5
一般機械・精密機械	15	8.3

情報系	順位	%
官公庁・自治体・公共機関	1	28.0
広告・放送・出版	2	25.0
自動車・輸送機器	3	24.0
専門職(弁護士・会計士等)	4	23.0
医療・福祉	5	20.0
旅行・ホテル・レジャー	6	18.0
商社	7	17.0
金融・証券・保険	8	13.0
百貨店・コンビニ	9	12.0
教育サービス	10	12.0
ソフトウェア・情報処理	11	12.0
調査・コンサルティング	12	11.0
電子・電気機器	13	10.0
食品・飲料	14	10.0
衣料・繊維	15	10.0

<今後の日本を支えていく>

文系	順位	%	理系(情報系以外)	順位	%	情報系	順位	%
官公庁・自治体・公共機関	1	36.8	自動車・輸送機器	1	36.5	電子・電気機器	1	33.0
医療・福祉	2	35.0	医療・福祉	2	34.5	ソフトウェア・情報処理	2	31.0
自動車・輸送機器	3	31.2	官公庁・自治体・公共機関	3	29.8	自動車・輸送機器	3	29.0
電子・電気機器	4	20.0	電子・電気機器	4	25.8	医療・福祉	4	29.0
専門職(弁護士・会計士等)	5	19.8	化学・医薬品・化粧品	5	22.3	エネルギー(電気・ガス)	5	22.0
ソフトウェア・情報処理	6	19.0	エネルギー(電気・ガス)	6	21.3	官公庁・自治体・公共機関	6	22.0
教育サービス	7	16.2	一般機械・精密機械	7	21.3	通信	7	21.0
エネルギー(電気・ガス)	8	14.8	ソフトウェア・情報処理	8	16.5	教育サービス	8	15.0
一般機械・精密機械	9	13.8	教育サービス	9	13.8	一般機械・精密機械	9	12.0
金融・証券・保険	10	13.0	専門職(弁護士・会計士等)	10	11.3	化学・医薬品・化粧品	10	10.0
通信	11	13.0	鉄鋼・金属・セラミックス	11	10.5	専門職(弁護士・会計士等)	11	10.0
化学・医薬品・化粧品	12	9.2	農林水産業・鉱業	12	9.3	鉄鋼・金属・セラミックス	12	9.0
農林水産業・鉱業	13	9.0	通信	13	9.3	広告・放送・出版	13	9.0
鉄鋼・金属・セラミックス	14	8.8	金融・証券・保険	14	6.5	農林水産業・鉱業	14	9.0
運輸(鉄道・空輸・海運)・倉庫	15	7.0	運輸(鉄道・空輸・海運)・倉庫	15	6.3	金融・証券・保険	15	8.0

図 2-24 産業別イメージ（専攻別）

(4) ITに関する仕事に対する興味

① ITに関する仕事に就くことへの興味

現在、IT関連職種は、情報サービス・ソフトウェア産業以外にも、広範な産業に分布している。このような現状をふまえて、今回の調査では、情報サービス・ソフトウェア産業のイメージの把握に加えて、学生に対して、「ITに関する仕事に就くことに興味があるか」を尋ねた。

なお、今回の調査においては、SEやプログラマ、ITコンサルタントなど、「ITやコンピュータに関する専門知識が求められる仕事」を「ITに関する仕事」と定義している。このような定義を示した上で、学生に対して、ITに関する仕事への興味の有無やその理由、どのような仕事に関心があるかなどを尋ねた。

図 2-25 は、ITに関する仕事に就くことに対する興味の有無を尋ねた結果である。これによると、「非常に興味がある」、「ある程度興味がある」と答えた学生は、約 50%に上り、全体の約半数の学生は、「ITに関する仕事」に就くことに興味を持っていることが分かった。

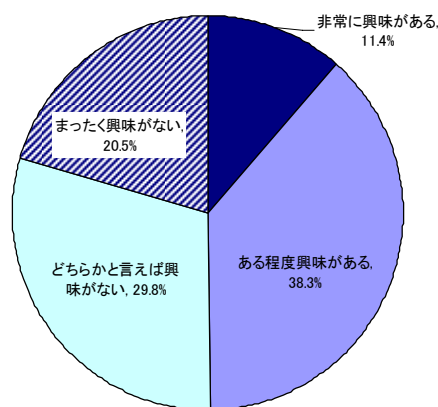


図 2-25 「ITに関する仕事」に就くことに興味があるか

図 2-26 は、図 2-25 を専攻別に集計した結果である。このデータによると、情報系の学生については、約 85%が、「非常に興味がある」「ある程度興味がある」と答えている。なお、情報系の学生でも、約 15%の学生が、「どちらかと言えば興味がない」「まったく興味がない」と答えている点は注目すべきであろう。また、文系、理系（情報系以外）の学生については、約 45%前後の学生が、この職種に興味を持っていることが示されている。

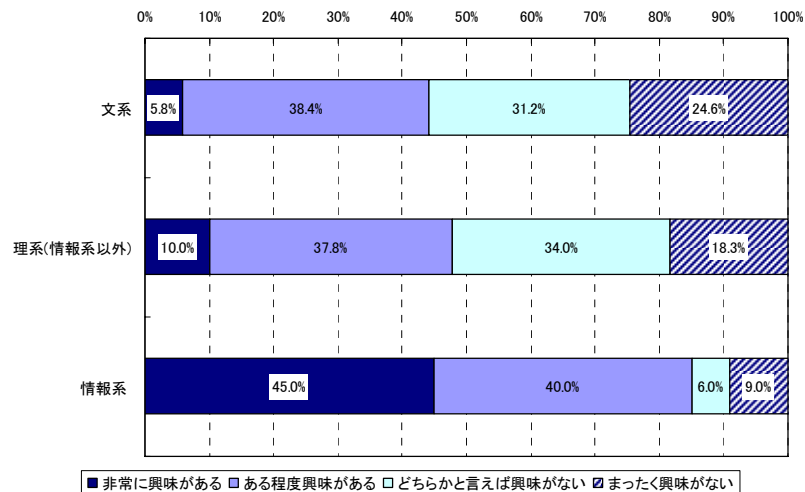


図 2-26 「ITに関する仕事」に就くことに興味があるか（専攻別）

② ITに関する仕事に就くことに興味がある理由

ITに関する仕事に就くことに「非常に興味がある」、「ある程度興味がある」と回答した学生に対して、なぜ興味があるのかを尋ねた設問の結果を、図 2-27 に示す。

これによると、「ITやコンピュータに関する分野が好きだから」が最も回答が多い結果となった。続いて、「技術が身に付く仕事だから」、「仕事の内容が面白そうだから」、「先進的な仕事だから」という「ITに関する仕事」の仕事の部分を評価する回答が続いた。

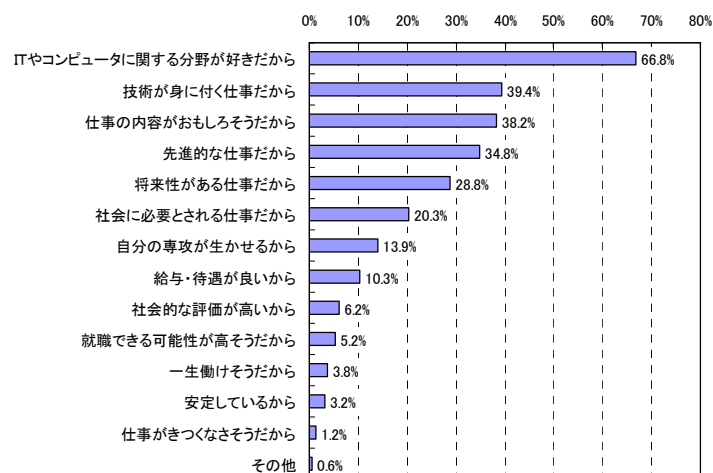


図 2-27 ITに関する仕事に興味がある理由

図 2-28 は、図 2-27 を専攻別に集計した結果である。どの専攻の学生についても、「ITやコンピュータに関する分野が好きだから」の回答が最も多い。その他、ほとんどの項目において、各専攻で類似した回答傾向が見られた。その中で、「将来性がある仕事だから」「社会に必要とされる仕事だから」との回答は、文系の学生に多くみられる。また、「自分の専攻が生かせるから」、「就職できる可能性が高そうだから」においては、情報系の学生の回答数が多い。

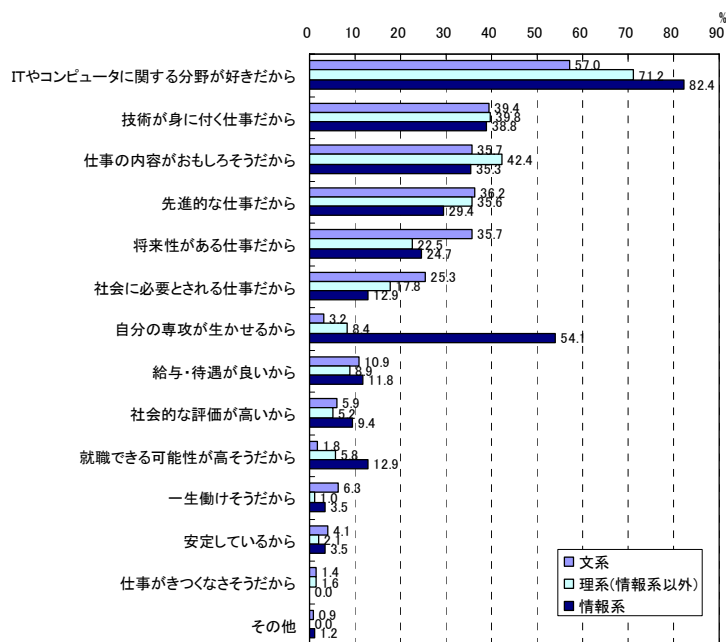


図 2-28 ITに関する仕事に興味がある理由（専攻別）

③ ITに関する仕事に就くことに興味がない理由

図 2-29 は、ITに関する仕事に就くことに「どちらかと言えば興味がない」、「全く興味がない」と回答した学生に対して、興味がない理由を尋ねた設問の結果である。これによると、全体では、「自分には適性がないと思うから」という回答が最も多い。

その他の回答として、「仕事の内容がよく分からないから」、「仕事上のストレスが多そうだから」の順に多い結果となった。また、「労働時間が長そうだから」、「一生続けられる仕事だとは思わないから」と回答する学生も比較的多くみられた。

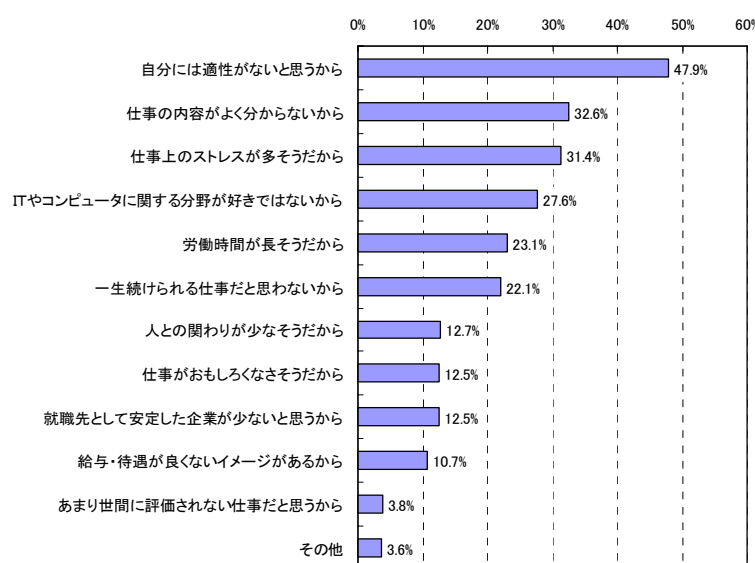


図 2-29 I Tに関する仕事に興味がない理由

図 2-30 は、図 2-29 を、専攻別に集計した結果である。この結果によると、文系、理系（情報系以外）においては「自分には適性がないと思うから」の回答が最も多く、「仕事の内容がよく分からないから」がこれに続く結果となった。しかし、「仕事の内容がよく分からない」ことを理由として挙げる情報系の学生は少なく、この理由は、文系、理系（情報系以外）の学生に多くみられる。その他、文系と理系（情報系以外）の学生には、「労働時間が長そうだから」、「一生続けられる仕事だと思わないから」などの回答が多い。

情報系の学生の回答と、他の学生の回答には差がみられる。情報系の学生の中で最も多い回答は、「仕事上のストレスが多そうだから」となった。また、「就職先として安定した企業が少ないと思うから」との理由も比較的多い。

なお、「仕事上のストレスが多そうだから」という理由は、どの専攻の学生からも挙げられており、I Tに関する仕事に対して興味を持てない大きな理由の一つとなっている可能性が推察される。

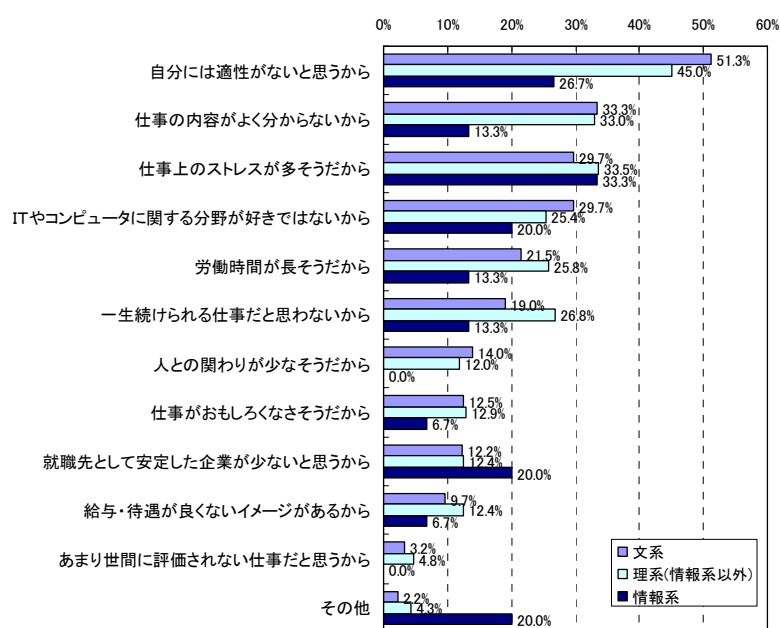


図 2-30 ITに関する仕事に興味がない理由（専攻別）

※ この設問については情報系専攻者の回答数が少ない（N=15）点に留意が必要。

④ ITに関する仕事のうち興味がある仕事

図 2-31 は、ITに関する仕事に付くことに「非常に興味がある」、「ある程度興味があると回答した学生に対して、「ITに関する仕事」として、具体的にどのような仕事に興味があるかを尋ねた設問の結果である。

これによると、「一般消費者向けの製品ソフトウェアの設計・開発」という回答が最も多い。続いて、企業向け情報システムの「企画や顧客への提案」、「開発・実装」、「技術的な設計」の順で回答が多い結果となった。全体的に、学生に身近な商品に関わる仕事やイメージしやすい仕事が上位に並んでいるとみられる。

ベンチャーの起業や、専門技術スペシャリストを志向する学生は、少ないという結果になった。

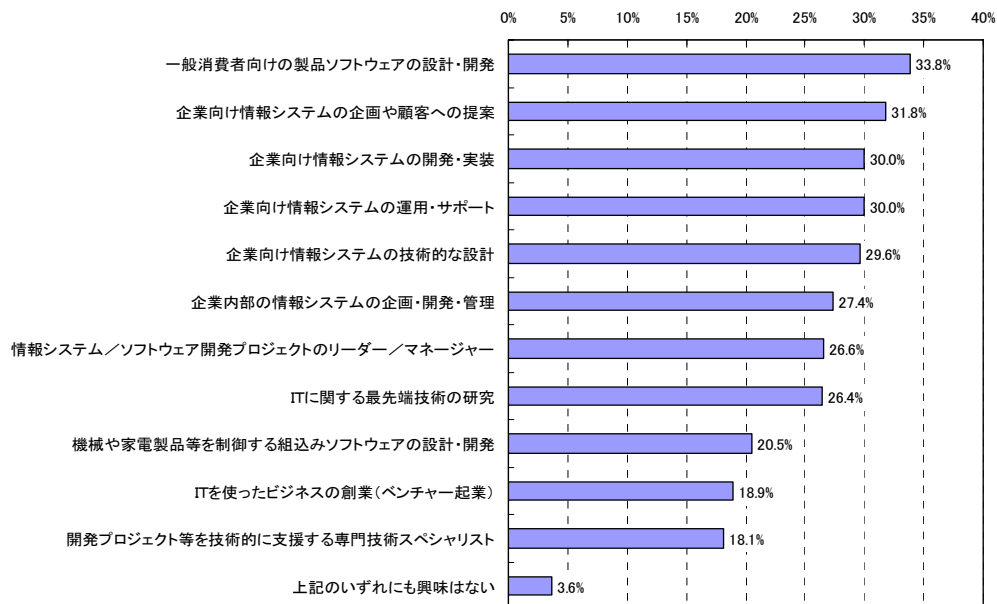


図 2-31 ITに関する仕事のうち興味がある仕事

図 2-32 は、図 2-31 を専攻別に集計した結果である。この結果によると、文系学生は企業向け情報システムの「企画・提案」、「運用・サポート」を希望する傾向にあり、理系（情報系以外）は、「一般消費者向けシステムの企画や顧客への提案」、「企業向け情報システムの開発・実装」の順に多い結果となった。情報系の学生では、企業向け情報システムの「技術的な設計」、「開発・実装」を希望する回答が多く、設計志向がみられる。

このように、ITに関する仕事でも、専攻により希望する仕事内容にばらつきの生じる結果となった。したがって、採用活動の際に、専攻により PR のポイントを変えることなども有効なのではないかと考えられる。

また、情報系の学生の方が、様々な職種に対する興味を持っていることから、情報系の学生は、他専攻の学生よりも、ITに関する仕事の内容を、具体的によく知っていること

が示されていると言えるだろう。

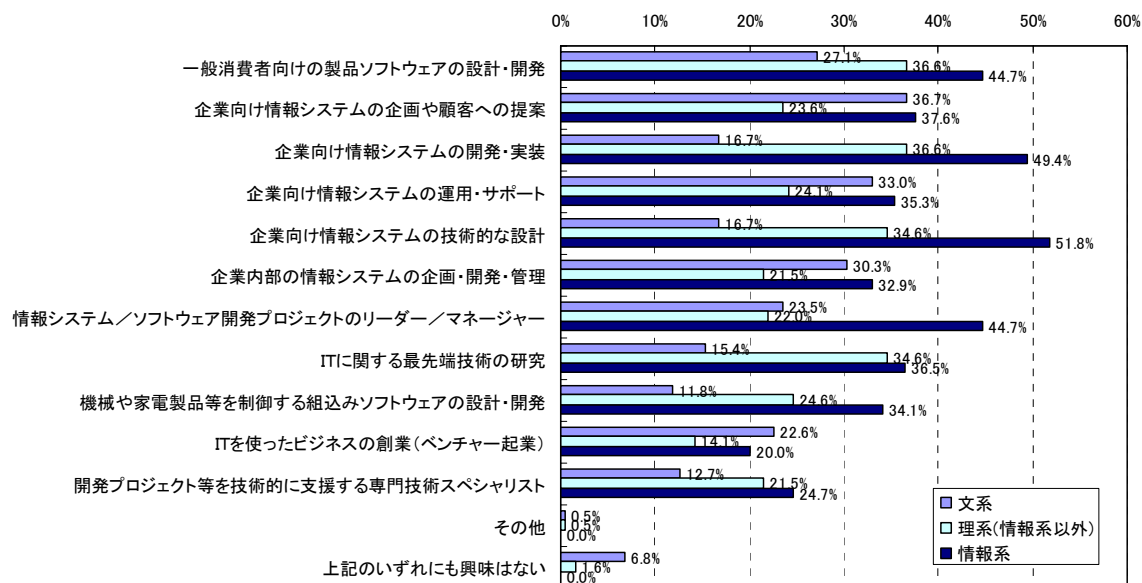


図 2-32 ITに関する仕事のうち興味がある仕事(専攻別)

⑤ ITに関する仕事をする場合に働きたい企業

図 2-33 は、ITに関する仕事に就くことに興味のある学生に対して、ITに関する仕事をするなら、どのような企業で働きたいかを尋ねた設問の結果である。これによると、最も多い回答は、「将来性のある企業」となった。続いて「大企業」、「福利厚生が充実している企業」、「給与が高い企業」、「教育研修制度が充実している企業」という順になっている。

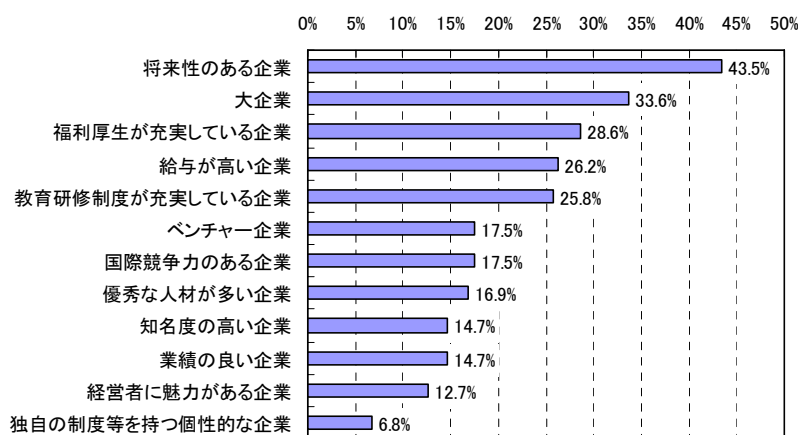


図 2-33 ITに関する仕事をする場合に働きたい企業

図 2-34 は、図 2-33 を専攻別に集計した結果である。他の専攻と比較して、情報系の学生は、「将来性のある企業」「給与が高い企業」と回答する割合がやや高めとなっている。情報系の学生は将来性や給与の高さを重視している傾向がみられる。

また、理系（情報系以外）の学生は、「大企業」と回答する割合が若干高めとなっている。

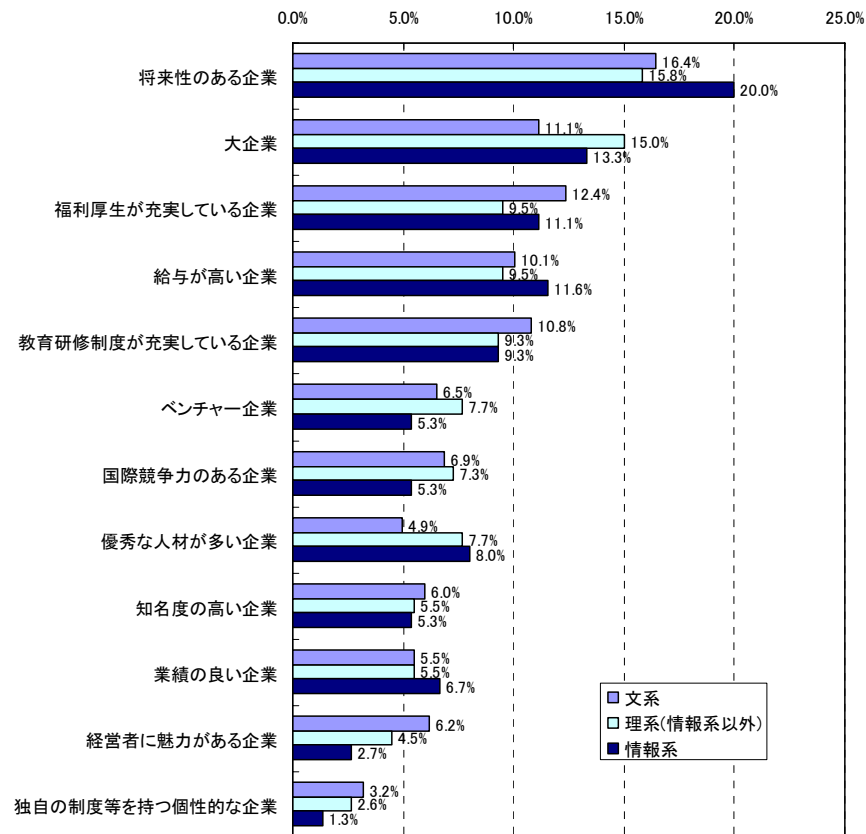


図 2-34 ITに関する仕事をする場合に働きたい企業（専攻別）

⑥ やりがいのある仕事の条件

今回の調査では、仕事に対する人気と、その仕事の「やりがい」に対する学生の認識の間には関連があるのではないか（人気が高い仕事の「やりがい」は理解され易いのではないか）との仮説のもとに、やりがいのある仕事の条件を尋ねた。また、併せて、「ITに関する仕事のやりがい」を尋ね、学生が一般的に考える「仕事のやりがい」は、「ITに関する仕事」にどれだけ当てはまるのか、その把握を試みた。

図 2-35 は、回答者全員を対象に、「やりがいのある仕事の条件」を尋ねた設問の結果である。この結果によると、「個人の実力が認められる」、「社会に貢献できる」、「高い報酬が得られる」、「顧客から感謝される」などの項目が上位に挙げられた。

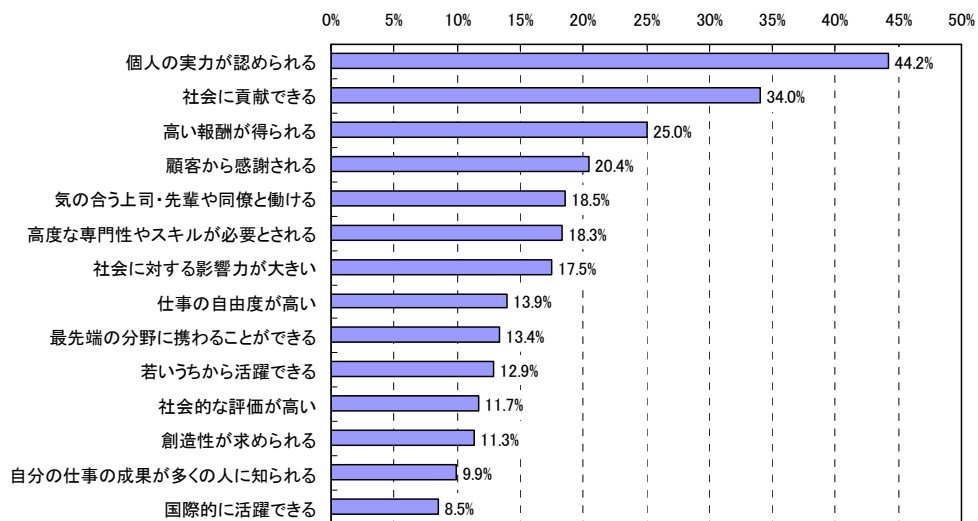


図 2-35 やりがいのある仕事の条件

図 2-36 は、図 2-35 を専攻別に集計した結果である。この結果によると、情報系の学生は、他の専攻の学生と比較して、「高い報酬が得られる」、「高度な専門性やスキルが必要とされる」などの条件を「やりがい」として挙げる傾向がみられた。文系、理系（情報系以外）の学生は、情報系の学生と比較して、「社会に貢献できること」と回答した割合が高いという特徴がみられる。

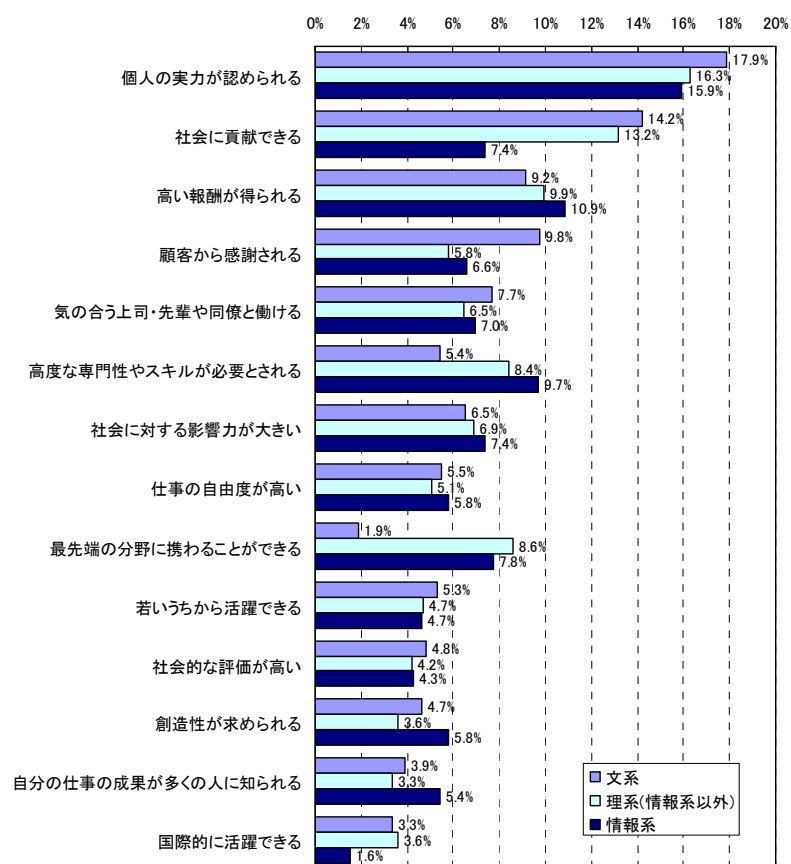


図 2-36 やりがいのある仕事の条件（専攻別）

⑦ ITに関する仕事のやりがい

図 2-35 では、学生が考える「やりがいのある仕事の条件」に関する設問の結果について述べたが、この設問で上位に挙げられている条件が満たされると、それは、それは学生にとって「やりがいのある仕事」であると言えるのではないだろうか。このような仮説のもとに、今回の調査では、図 2-35 とまったく同じ選択肢を用いて「ITに関する仕事のやりがい」を尋ねた。

図 2-37 は、図 2-35 に示した「やりがいのある仕事の条件」が、「ITに関する仕事」にどの程度あてはまるか、を尋ねた設問の結果である。この結果によると、「高度な専門性やスキルが必要とされる」、「最先端の分野に携わることができる」に続き、「個人の能力が認められる」という順番で回答が多い結果となった。

なお、この図 2-37 の結果は、図 2-39 として、最後に示す。

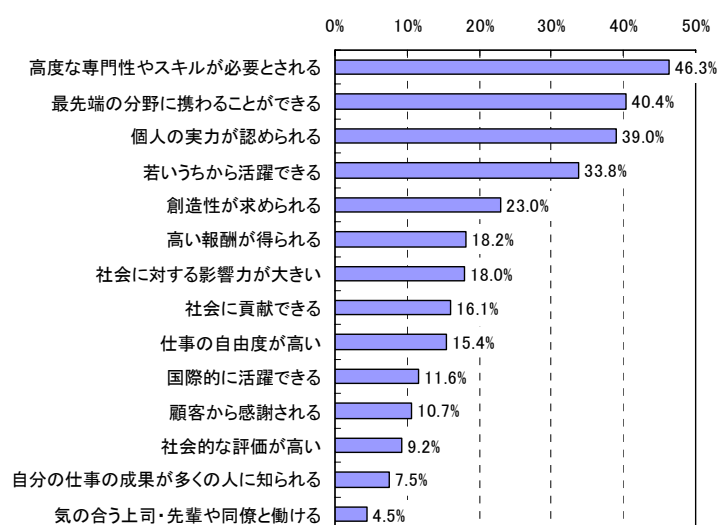


図 2-37 ITに関する仕事のやりがい

さらに、図 2-38 は、図 2-35 のやりがいのある仕事の条件と、図 2-37 の ITに関する仕事のやりがいを比較した結果である。「やりがいのある仕事の条件」で上位回答であった「社会に貢献できる」、「高い報酬が得られる」、「顧客から感謝される」、「気の合う上司・先輩と働ける」などの条件が、ITに関する仕事においては、回答率が低い。この結果より、学生にとっての一般的な「やりがいがある仕事の条件」が、ITの仕事では満たされないイメージが持たれているのではないかと考えられる。

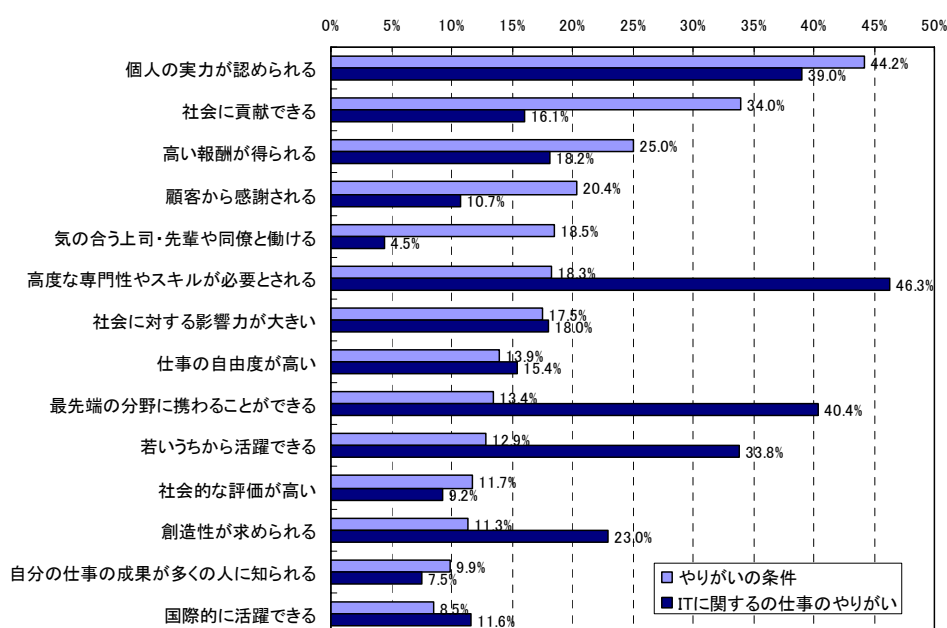


図 2-38 仕事におけるやりがいの条件と ITに関する仕事のやりがい

エラー！参照元が見つかりません。は、図 2-37 を専攻別に集計した結果である。この結果によると、文系、理系（情報系以外）は、同じような傾向を示しているが、情報系学生は、「社会に対する影響が大きいこと」、「社会に貢献できる」、「顧客から感謝される」などの項目をやりがいとして回答する割合が高い。ここから、ITに関する仕事の内容について比較的良好に知っている情報系の学生の方が、多くの点についてやりがいを感じ取っていることが分かる。

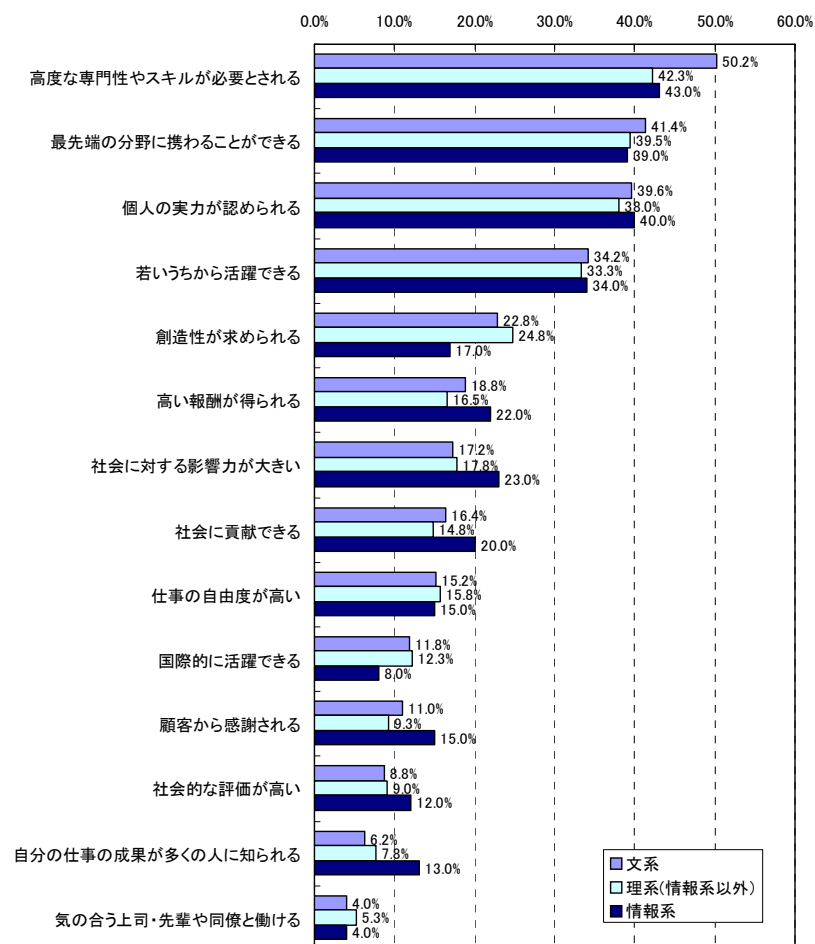


図 2-39 ITに関する仕事のやりがい（専攻別）

2.3 調査結果分析と提言

以下には、調査結果の分析を示すとともに、分析の結果をふまえて、情報サービス産業が優秀な人材を確保するための方策についての提言を行う。

2.3.1 調査結果の分析

① 専攻と志望の就職先

本調査の結果から、学生は自分の興味・適性を重視して専攻を決定する傾向にあると言える。またその一方、約8割近い学生が、程度に違いはあるものの将来の就職を見据えて専攻を選択したと回答した。この傾向は、情報系・理系（情報系以外）の学生で顕著であった。学生は自分の興味や適性を考慮し、さらに専攻の延長上に就職があることを見据えて専攻を選択していると言える。

希望する就職先は、専攻により業界にばらつきが見られたが、情報系・理系（情報系以外）の学生は専攻を生かせる業界を志望する傾向がみられた。例えば、ソフトウェア・情報処理業界は、情報系を専攻する学生の高い人気を得た。希望する業界への志望理由では、「専攻が生かせる」という回答のほかに、「仕事が面白そうだから」、「社会に必要とされているから」などの回答が多く挙げられた。

以上の結果から、学生にとって、志望する職業と専攻が密接につながっていることは明らかである。そのため、学生が「仕事をイメージできるか」、「産業のイメージができていくか」が専攻の決定や就職活動などの進路選択の際に、重要な決定要因となると考えられる。

② 情報サービス産業に対するイメージ

文系、理系、情報系などの専攻によって、回答傾向に違いが見られたことから、専攻が異なれば、情報サービス産業に対する知識や考え方が異なることとみられる。この点をふまえて、以下には、情報系と情報系以外（文系、理系（情報系以外））の学生に分けて、今回の調査結果の分析を示す。

③ 情報系以外（文系・理系（情報系以外））の専攻学生について

1. 産業イメージ調査の結果から

産業イメージ調査の結果から、「人気が高く就職が難しい業界」、「優秀な学生が就職する業界」、「働いている人たちの満足度が高い業界」の項目において、「ソフトウェア・情報処理」業界は全体で10位前後の結果となった。これら3項目について高い評価を受けている業界を分析すると、順番に若干の変動はあるが、公務員、マスコミ、商社、金融など同じ業界が並ぶ結果となった。そして、これらは、学生の志望先ランキングにおいても、「ソフトウェア・情報処理」業界よりも上位に位置する業界である。このような「ソフトウェア・情報処理」業界よりも人気の高い業界は、学生にとって、仕事内容をイメージし

易く、学生の生活に身近なサービス（商品）を提供しているという共通点がある。よって、「ソフトウェア・情報処理」業界が、人気のある業界として上位には挙がらない理由として、「どのようなことをしている業界なのか」など、仕事の内容やイメージが具体的に理解されていないことが挙げられると考えられる。情報系以外の学生に対しては、ソフトウェア・情報処理業界の仕事の内容やイメージを、学生に浸透させることが急務であると言えるだろう。

2. ITに関する仕事に対する意識について

本調査では、文系、理系（情報系以外）共に、約45%の学生が、ITに関する仕事に就くことに対して興味を示していた。ITに関する仕事を志望する理由として、最も多い回答は、「ITやコンピュータに関する分野が好きだから」であった。一方、ITに関する仕事に就くことに興味がない理由として、最も多い回答は、「自分には適性がないと思うから」であり、「仕事の内容がよく分からないから」という回答がこれに続いた。「自分には適性がないと思うから」という回答は、文系・理系（情報系以外）の学生の中に特に多い傾向がみられ、IT機器を操作することなどに対する苦手意識や、ITに関する仕事について正しく理解していないことが、この回答の背景にあるのではないかとの推測もできる。多くの学生が、この情報サービス・ソフトウェア産業における仕事の内容を、具体的に理解できないまま、仕事に対する興味の有無を判断している可能性がある。

また、情報系以外の専攻の学生は、ITに関する仕事のうち興味のある仕事として、一般消費者向け製品ソフトウェアの設計・開発を希望する回答が最も多く、学生にとって一般的で身近な製品の開発を希望する傾向がみられた。この結果から、学生は身近で利用するインターネットやコンピュータから、情報サービス産業界のイメージを想像しているのではないかと考えられる。

情報系以外の専攻の学生は、情報サービス産業における具体的な仕事内容ややりがいなどが伝わっていない中で、限られた情報によって、就業の興味の有無を判断している可能性がある。よって、今後は、幅広く学生に対して、情報サービス産業の仕事についての具体的な理解を浸透させていくことが必要であると言える。

3. 仕事における「やりがい」について

やりがいのある仕事の条件を尋ねる設問で上位回答となった「社会に貢献できる」、「高い報酬が得られる」、「顧客から感謝される」が、ITに関する仕事においてのやりがいでは回答率が低い結果となった。この結果から、仕事のやりがいの条件として上位に挙げられた項目が、ITに関する仕事のやりがいとは考えられていないことが、情報サービス産業の人気の上位に挙がらない理由の一つとなっていることが考えられる。学生に対して、情報サービス産業の具体的な理解を進めていく際は、「社会に貢献できる」、「高い報酬が得られる」、「顧客から感謝される」など、学生が、一般的に仕事のやりがいと捉える傾向が

ある点からのイメージ戦略も必要であると考えられる。

また、ITに関する仕事の「やりがい」は、学生の情報サービス産業への期待感の表れと読み取ることができる。専攻によって、回答傾向に若干の差がみられたものの、多くの文系・理系（情報系以外）の学生は、「高度な専門性やスキルが必要」とされ、「最先端の分野に携われる」業界であることをプラス評価していた。上述のとおり、学生への情報サービス産業のイメージの定着が急務であるが、その際、学生が抱いているプラスのイメージや期待感に添えていくことも必要である。

④ 情報系を専攻する学生について

調査の結果から、情報系を専攻する学生の約80%が、ソフトウェア・情報処理業界を希望する就職先産業として挙げた。また、産業イメージ調査の「今後日本を支えていく業界」では、「電子・電気機器」業界と「ソフトウェア・情報処理」業界を挙げる学生が多くみられ、1位・2位を独占する結果となった。さらに、ITに関する仕事の「やりがい」を尋ねる設問において、「社会に対する影響力が大きい」、「社会に貢献できる」、「顧客から感謝される」などの項目を回答する割合が情報系の学生は高かった。

その一方で、ITに関する仕事を志望しない情報系学生は、その理由として「仕事のストレスが多そうだから」、「自分には適性がないと思うから」、「就職先として安定した企業が少ないと思うから」、「ITやコンピュータに関する分野が好きではないから」などを挙げている。長時間勤務、ストレスの多さなど、働く人々の“ワークスタイル”に対してマイナスイメージを指摘するケースが多いのも、情報系を専攻する学生の特徴だと言える。

以上の結果から、情報系の学生は、専攻分野と直結する情報サービス産業への就職を希望する場合が多く、この業界のプラスの側面、マイナスの側面をある程度理解していることが推察できる。したがって、情報系の学生の間には、他専攻の学生よりも、「情報サービス産業のイメージ」、「この業界で働くことのイメージ」が浸透していると言える。

2.3.2 提言

以上の分析に基づき、情報サービス産業が優秀な人材を確保するための方策についての提言を示す。なお、学生の専攻によりアプローチを変える必要があると判断したため、情報系の専攻の学生に向けた方策と、情報系以外の専攻（文系・理系（情報系以外））の学生に向けた方策に分けて、以下に提言を示す。

(1) 情報系以外（文系・理系（情報系以外））の専攻学生に向けた方策

① 情報サービス産業のプラスイメージの浸透

情報系以外の専攻の学生は、情報サービス産業について、限られた情報から断片的に捉えているのが現状であり、具体的な業界イメージの浸透が急務である。本調査において、「ITに関する仕事で働きたい企業」を尋ねる設問では、将来性、福利厚生、給与、教育

研修制度などを重視する傾向がみられた。また、「やりがいのある仕事の条件」と「ITに関する仕事のやりがい」を尋ねる設問の結果を比較したところ、やりがいのある仕事の条件として「社会に貢献できる」、「高い報酬が得られる」、「顧客から感謝される」の項目が高い評価を得たのに対し、これらをITに関する仕事のやりがいと考える傾向は弱い。

近年、学生が仕事に求める“価値”は多様化しており、今後情報サービス産業のイメージを浸透させるにはこれらに対応した情報の開示が求められる。そして、多くの学生が想像している“身近で利用しているインターネットやパソコンのイメージ”から“社会のインフラを担う産業のイメージ”へ転換が必要である。また、情報サービス産業の“やりがい”という観点からのPRも必要である。その際、現在、学生が抱えている、情報・サービス産業に対するプラスのイメージや期待感に添えていくことも重要であると言えるだろう。

② 情報サービス産業で働くイメージの明確化

本調査の「興味あるITの仕事」を尋ねる設問において、文系を専攻する学生は、企業向け情報システムの「企画・提案」、「運用・サポート」を希望する回答が多かった。情報系以外の学生は、ITに関する仕事を「高度な専門性やスキルが必要とされる」仕事と捉える傾向にあるため、文系の学生が、専門性を必要とする開発工程を避け、その他工程の仕事を希望する結果はこれと合致する。しかし、上述のように、学生は限られた情報の中であやふやなイメージのまま、情報サービス産業の仕事を想像している可能性がある。よって、情報サービス産業に関する具体的なイメージの浸透のためには、情報サービス産業における仕事内容の明確化が必要である。その際、情報サービス産業の“やりがい”という観点から、情報を公開していくことが重要であると考えられる。また、情報系以外の学生が、情報サービス産業においてどのような点を評価され、どのように活躍しているのかなど、「採用したい人材」を、企業側（情報サービス産業側）が明確に提示していくことも求められる。

(2) 情報系の専攻学生に向けた方策

本調査の結果から、他の専攻の学生と比較して、情報系の学生は、ITに関する仕事について具体的に理解していることが明らかとなった。情報系を専攻する学生は、情報サービス産業への就職についても、ある程度適切な情報を得て判断を行っていると考えられる。ただし、他の専攻と比較して、情報系の学生は、ワークスタイルなどについて情報サービス産業へマイナスイメージを持つ傾向があり、この点は改善される必要があるとみられる。これについては、インターンシップなどの実務体験の機会を提供し、「情報サービス産業で働くこと」についてのイメージを明確化し、ITに関する仕事の“やりがい”を伝えながら、マイナスイメージの払拭を図るべきであろう。

また、上述のように、情報系を専攻する大半の学生が、情報関連産業への就職を希望し

ている。情報サービス産業を支える優秀な人材を確保するためには、今後、企業が採用活動において、学生の専門性を評価する姿勢も重要であると言える。

【参考】アンケート調査票

本章には、参考資料として、今回、予備調査として使用したアンケート調査票を記録した。

本章に収められているアンケート調査票は、以下のとおりである。

- (1) I T人材動向調査：調査票（I T企業向け）
- (2) I T人材・海外 I Tサービス利用動向調査：調査票（ユーザー企業向け）
- (3) ソフトウェアの海外取引動向に関する調査：調査票（I T企業向け）
- (4) 情報系学生動向調査：調査票（高等教育機関向け）

※アンケート調査票については2008年1月29日にIPAよりプレス公開済み。

参照：<http://www.ipa.go.jp/about/press/20080129.html>